

NEWSな濟生人  
「女性が働きやすい  
病院」認証

# 濟生

**SAISEI**

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

**No.1138**



**4**

April 2024

社会福祉法人

恩賜  
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

# 濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani



## ケアのこころ

テレビドラマはあまり見ないが、昨年10月から3月までNHKで放送された「プギウギ」は見ていた。笠置シズ子をモデルにした主人公を演ずる里の演技力に惹かれた。

笠置シズ子の歌は、幼いころラジオからよく流れた。子どもでも覚えやすい歌だったから、

子どもでも何気なく口ずさんでいた。私の年代の者は、誰でも彼女の名前を知っていた。しかし、ドラマで描かれた波乱の人生を経験していたとは知らなかった。笠置シズ子の経験した養父母、実母、弟などとの複雑な人間関係を、里は見事に演じていた。相手を思いやる優しい心を言葉だけでなく、顔の表情や動作で表現していた。

25年前、旧厚生省で局長を務めていた時、滋賀県の福祉団体から講演の依頼を受けた。大津市にある千人以上が収容できる大ホールが会場だったが、ソーシャルワーカーの心得について日ごろから考えていたことを率直に話した。自分としては上出来の講演だったが、翌日の東京新聞の社会面を見てびっくり仰天。「厚生省局長、問題発言」と見出しが打たれ、私の講演を報道していた。

「局長は、利用者に対して心を込めた福祉サービスでなければならぬ」と述べたが、これは予算を削減するための口実であ

テレビでの画面からは、局内のセットでのお芝居だと分かるが、里の心の表現は、迫真的だった。

人間が抱えている心は、他人には正確には分からない。相手の言葉、表情、行動で推し量るが、相手が優しい心だと思おうとほっと安らかな気持ちになる。病気や障害を持ち、人生のどん底状態だと、人は落ち込む。こんな時優しい心でケアされると、安心と勇気が湧いてくる。

☆ ☆

東京都八王子市の精神科病院・滝山病院の看護師による患者虐待事件をはじめ病院や福祉施設での職員による虐待事件が後を絶たない現実に接すると、寂しさと怒りを感じる。いかなる場合も患者や利用者へのケアでは、相手に寄り添った温かい心を持つのと持たないのでは、同じ行為であっても、患者や利用者は天と地の違いを感じている。

☆ ☆

「と批判する声が上がったというのである。前段はその通り発言したが、後段は示唆する表現さえなかったし、現実に予算削減など検討もされていなかった。そもそも私の講演内容のどこが問題発言なのか皆自分からない。上司に当たる事務次官も新聞記事に首を傾げるばかり。

参加したソーシャルワーカーの一部は「ケアの心」というお説教は聞きたくない、欲しいのは給料アップだということなのか。給料は大切だが、利用者のケアでは温かい心が中核になれば、ソーシャルワーカーとして失格である。利用者の信頼は得られない。

不易流行（ふえぎりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



熊本、松山から「冬の愛」をお届けします！



熊本濟生会ほほえみ「パン工房ふわり」  
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」  
愛媛県松山市東山町143番地 Tel: 089-916-6959



## 焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、濟生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・濟生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが店舗し、濟生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



◆くまドレース (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレース)



◆元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

濟生会のトップページからアクセス!!  
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱい商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



# 濟生

SAISEI

CONTENTS

APRIL, 2024

## NEWSな濟生人

「女性が働きやすい病院」認証

〈三重〉松阪総合病院

院長

清水敦哉さん

副院長・乳腺センター長

06

+ 花村典子さん

泌尿器科部長

+ 吉尾裕子さん

## 濟生会交差点

〈小樽×濟生会 ウエルネスなまちづくり〉全

国初！発達支援が受けられる保育園留学。い

10

つもと違う環境でも「できる！」を実感／〈在

宅訪問栄養食事指導〉在宅高齢者の栄養状

態を改善。悪化前に介入し再入院を防ぐ！

## 災害支援 能登半島地震

### 復興に向けて

18

この人 鈴木 福

40

口福につぼん 吉井省一

42

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

44

いまいみさ

## TOPICS

46

載々、大雑報

70

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



4月のたよりが聞こえる

## アスパラガス

春から初夏に旬を迎え、キジカクシ科クサシギカズラ属のアスパラガス。国内では北海道、長野県、佐賀県で主に生産され、種類として、グリーンアスパラガス・ホワイトアスパラガス・紫アスパラガスなどがある。

日本で食用としての栽培をはじめたころは缶詰加工用にホワイトアスパラガスが主流であったが、昭和40年代以降はグリーンアスパラガスが主流に、ここ数年では紫アスパラガスが人気である。

こんな色鮮やかで、春を告げる野菜であるアスパラガスだが、ちょっと困った一面がある。それは食べた後、尿の刺激臭が強くなること。アスパラガスに含まれるアスパラギン酸が消化とともに硫黄化合物を合成するためである。しかし、人に

よっては臭く感じない人もいるらしい。このアスパラガス問題は1890年代から謎とされてきたが、

21世紀に入りようやく決着がついた。アメリカ・ハーバード大学公衆衛生大学院の研究チームが、6909人のアスパラガスを食べたことがある人を対象に「アスパラガスを食べた後の自分の尿は、独特なにおいがするか」を調査。男性58%、女性61・5%が「においを感じない」と答えた。においを感じない人のおいを感じ取る細胞の遺伝子を調べると、871カ所に小さな変異がある可能性が発見された。結論は「遺伝的ににおいを感じできない人がいる」というわけだ。

ほかにもリンゴや麦芽、スマイレー足の裏のにおいなどの感受性にも個人差がある。においの捉え方には個人の経験や習慣、文化的背景はもちろんのこと、遺伝子の違いも影響がありそうだ。

ま、旬の甘いアスパラガスを食べないなんて、もったいない。尿のにおいなんて半数以上の人が気がつかないんだから、気にせず明日のお弁当にはベーコン巻きを入れようかな。

### 表紙のことば

## 春のエネルギーですくすく伸びろ

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

春の野菜「アスパラガス」。大切にお包みにくままれて地面から顔を出した若芽が頭の先っぽをアンテナのように太陽に向け春のエネルギーをいっぱい受けてすくすく成長していきます。お包み

もすぐに小さくなってお腹や足が出てしまいます。「タケノコ」「ツクシ」——春の植物の形はいくつか似ているような気がします。生命力を表す形なのでしょうか。食べると元気をいただけます。



駐車場（写真手前）に病院を建て替える予定（2027年度）。救急・がん診療・手術・周産期などに対応、感染症や災害に対応できる多機能な病院を目指す



2023年3月、三重県から「女性が働きやすい医療機関」に再認証された。保育施設の整備など勤務環境の改善に積極的に取り組む医療機関を県が審査する

# 「女性が働きやすい病院」認証



〈三重〉松阪総合病院

泌尿器科部長 **吉尾裕子** さん  
 院長 **清水敦哉** さん  
 副院長・乳腺センター長 **花村典子** さん

## 2024年4月、医師の働き方改革がスタート 勤務環境の改善がますます重要に

国が進める医師の働き方改革。長時間労働の改善による健康の確保には多様な働き方が求められています。済生会でも第3期中期事業計画でダイバーシティを尊重した働きやすい環境づくりの必要性を強調しています。女性が活躍する職場にするためには何が必要なのか。三重県「女性が働きやすい医療機関」として認証されている〈三重〉松阪総合病院を訪ねました。

（大阪・泉尾病院 済生記者 中堂佑亮）

**中堂** 松阪総合病院は「女性が働きやすい医療機関」として認証されていると伺いました。どのような認証制度ですか。

**清水** 三重県が全国に先駆けて2015年に独自に始めたものです。医療機関の主体的な取り組みによって、妊娠時や子育て時の当直免除、短時間勤務に関する制度や保育施設の整備などを図り、勤務環境の改善につながるよう創設されました。

**中堂** 近年、医学部入学者や国家試験合格者に占める女性の割合が高まっていますから、女性医師が安心して働き、活躍できる環境を整備することは重要ですね。

**清水** 当院でも緩和医療科、麻酔科、産婦人科などは女性医師が多かったのですが、最近は外科系も増えていきます。

**中堂** 認証制度ではどのようなことが審査されるのですか。

**清水** 認証要件としては、職場環境づくり、人事管理、保育・介護支援、サポート体制に取り組んでいること。そして当たり前に

すが、法令に違反する重大な事実がないこととなっています。諸岡芳人前院長が認証獲得に向けて積極的に取り組み、当院は2019年3月に認証を受けました。私は20年に院長に就任し、その意思を引き継ぐ形で、昨年、再認証を受けました。

**中堂** 審査結果はどうでしたか。

**清水** 職場環境づくりやサポート体制など、全般的な取り組みが行なわれているという総評でした。特に、女性医療従事者などに

対する支援について明確なビジョンがある点等が高く評価されました。一方、医師の労働時間の短縮、学童保育や病児保育の実施、当直室・休憩室の環境整備など、改善点も浮き彫りになりました。

**中堂** そうした改善点に対して、どのように取り組んでいますか。

**清水** 当院では院内保育園たんぼぼ（定員50人）を11年4月に開設し、16年に新築移転しました。週1回、夜間保育も実施しています。27年には新病院のオープン控えています。が、年季の入った本館7階に女性専用のシャワー室や当直室を新たに設置しました。

**女性が受診しやすい病院は女性が働きやすい病院でもある**

**中堂** 吉尾先生は専門が泌尿器科ですが、泌尿器科の女性医師は珍しいのでは。

**吉尾** 私自身も泌尿器科は男性の世界というイメージを持っていましたが、近年は女性も増えてきています。私の母校の三重大学泌尿



聞き手の中堂佑亮さん

・子育てなどの理由で諦める人が少なくありませんでした。

**中堂** 志も技術もあるのに、諦めざるを得ない状況があるのは残念ですね。

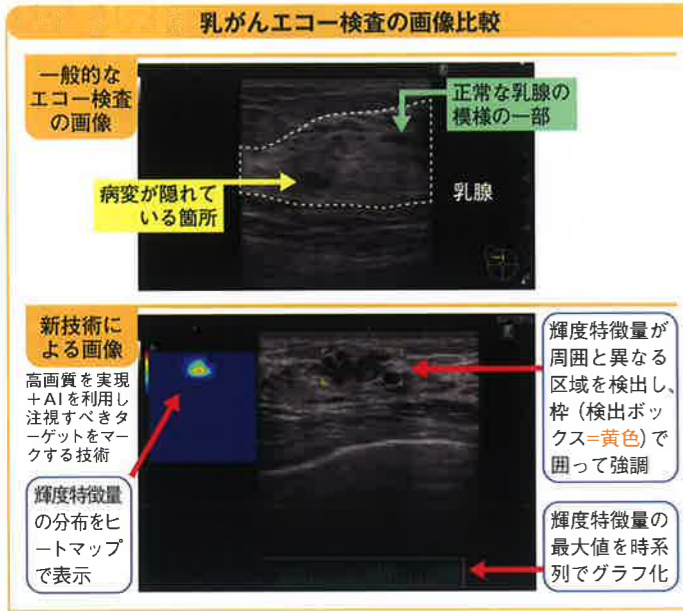
**吉尾** 近年は腹腔鏡手術、ロボット支援手術など治療法も進歩し、女性が活躍できる門戸は広がっています。その影響もあるのでしょうか、女性の患者さんも増えて

います。

**中堂** 泌尿器科を受診する女性患者さんはどのような疾患が多いのですか。

**吉尾** 尿失禁、骨盤臓器脱（出産や加齢などが原因で骨盤内の臓器が腔から出てくる状態）などが比較的多く、当院では特に女性の排尿障害の診療を積極的に行なっています。これらの疾患に対応できる医療機関が三重県内には少なく、患者さんは紹介状

\*写真撮影時のみマスクを外しています



を持って大阪や名古屋など、県外の医療機関にかかっていました。当院のことを知って女性患者さんが増えていきます。

**中堂** 積極的な診療というのは、具体的にはどのような？

**吉尾** 21年7月、当院に手術支援ロボット「ダビンチ」が導入されました。骨盤臓器脱の手術はロボット支援腹腔鏡下仙骨固定術によって、さらに安全かつ確実な手術ができるようになりました。私はすでにダビンチを使った手術経験があり

一人で多くの患者さんにもその恩恵を受けてもらいたいと、22年4月に当院に着任しました。これまで骨盤臓器脱のロボット支援手術を39例行なっています。

**中堂** 最新技術への対応も、患者さんが受診する一つの条件になると思っています。乳がんの早期診断を目的にクラウドファンディングを募って大きな反響があったようですね。

**清水** はい。クラウドファンディングを有効に使うと、当院の看板の一つである乳腺外科(乳腺センター)で寄付を呼びかけ、AI搭載の超音波診断装置を整備しました。

**花村** 日本人女性の9人に1人が乳がんになる時代です。また、30〜60代の女性で、がんで亡くなる人のうち一番多いのが乳がんであり、早期発見のための検診・受診が勧められます。

**清水** 乳がんは早期に発見できれば比較

えらうよう、寄付させていた「乳がんセンター」の患者さん、「新しい装置を使った感想を聞かせてください」(開業医)といった声も届いています。

当院の設備はありますが、地域の共有財産のように考えています。

**中堂** ダビンチのような高額な機器は購入しにくく、でも、患者さんに少しでも良い医療を提供したいという医療機関は多いと思います。

**清水** さきほど吉尾先生が言ったとおり、この地域には

泌尿器科を受診する女性患者さんが多くいて、皆さん悩んでいることは分かっています。だからこそダビンチは「地域が必要としている」と感じました。思い切った投資の結果、吉尾先生をリクルートすることができ、昨年4月からは泌尿器科に女性医師が1人加わりました。乳腺センター、外科にも女性医師を増員し、体制を強化しています。

泌 尿 器 科 を 受 診 す る 女 性 患 者 さ ん が 多 く い て、皆 さん 悩 ん で い る こ と は 分 か っ て い ま し た。だ か ら こ そ ダ ビ ン チ は 「 地 域 で 必 要 と し て い る ! 」 と 感 じ て い ま し た。思 い 切 っ た 投 資 の 結 果、吉 尾 先 生 を リ ク ル ー ト す る こ と が で き、昨 年 4 月 か ら は 泌 尿 器 科 に 女 性 医 師 が 1 人 加 わ り ま し た。乳 腺 セ ン タ ー、外 科 に も 女 性 医 師 を 増 員 し、体 制 を 強 化 し て い ま す。

ポ ー ト が な い と 働 き 続 け る の は 無 理 で す。幸 い、私 は 親 や き よ う だ い の 支 え で 常 勤 が 可 能 で し た。子 ども が 小 さ い と き は、手 術 を し な が ら 育 児 や 家 事 の 段 取 り を 考 え た り す る こ と も あ り ま し た。

**吉尾** 私の場合は、育児のために仕事を減らしてもらったのではなく、逆に与えられたことでモチベーションを維持できました。子育てや家事がある女性はタイムマネジメントを意識します。今日は長時間に及ぶ手術があるから、家事はここまで頑張っておこうか、と時間を配分する習慣も自然に身につきました。

**中堂** 花村先生、吉尾先生の仕事と家事・子育てを両立させる姿は、若い女性医師の働き方の見本になっていますね。

**清水** 女性が働きやすい職場づくりが進むことで、働く女性が増え、男性も育児に関わるようになっていくのではないのでしょうか。昨年は放射線科と消化器内科の男性医師2人が育児を取りました。女性が働きやすい医療機関として認証されたことはゴールではなく、病院経営のビジョンの一つです。これからは女性が活躍できる病院づくりを進めていきたいと考えています。

一人でも多くの患者さんにもその恩恵を受けてもらいたいと、22年4月に当院に着任しました。これまで骨盤臓器脱のロボット支援手術を39例行なっています。

**中堂** 最新技術への対応も、患者さんが受診する一つの条件になると思っています。乳がんの早期診断を目的にクラウドファンディングを募って大きな反響があったようですね。

**清水** はい。クラウドファンディングを有効に使うと、当院の看板の一つである乳腺外科(乳腺センター)で寄付を呼びかけ、AI搭載の超音波診断装置を整備しました。

**花村** 日本人女性の9人に1人が乳がんになる時代です。また、30〜60代の女性で、がんで亡くなる人のうち一番多いのが乳がんであり、早期発見のための検診・受診が勧められます。

**清水** 乳がんは早期に発見できれば比較

泌 尿 器 科 を 受 診 す る 女 性 患 者 さ ん が 多 く い て、皆 さん 悩 ん で い る こ と は 分 か っ て い ま し た。だ か ら こ そ ダ ビ ン チ は 「 地 域 で 必 要 と し て い る ! 」 と 感 じ て い ま し た。思 い 切 っ た 投 資 の 結 果、吉 尾 先 生 を リ ク ル ー ト す る こ と が で き、昨 年 4 月 か ら は 泌 尿 器 科 に 女 性 医 師 が 1 人 加 わ り ま し た。乳 腺 セ ン タ ー、外 科 に も 女 性 医 師 を 増 員 し、体 制 を 強 化 し て い ま す。

く だ さ い」と 昨 年 7 月 に イ ン タ ー ネット で 寄 付 を 呼 び け だ した と ころ、2 カ 月 余 り で 目 標 金 額 8 0 0 万 円 を 上 回 る 1 2 0 0 万 円 も の 寄 付 を い た だ き ま し た。

**中堂** 済生会に期待し、支援しようという地域の皆さんの気持ちが込められていますね。

**花村** 「一人でも多くの患者を見つけてもら

的 予 後 が 良 好 と い わ れ て い ま す か ら ね。

**花村** AI搭載の超音波診断装置があれば、見逃しや過剰診断を防ぐことで、検診精度の向上や医療技術等の格差の是正に貢献することが期待されます。ただ、購入を予定していた機種は高額であり、コロナ禍の影響で予算化が厳しい状況でした。

**中堂** クラウドファンディングの効果はどうでしたか。

**花村** 「乳がん早期発見に向け、AI搭載の超音波診断装置を導入させて

泌 尿 器 科 を 受 診 す る 女 性 患 者 さ ん が 多 く い て、皆 さん 悩 ん で い る こ と は 分 か っ て い ま し た。だ か ら こ そ ダ ビ ン チ は 「 地 域 で 必 要 と し て い る ! 」 と 感 じ て い ま し た。思 い 切 っ た 投 資 の 結 果、吉 尾 先 生 を リ ク ル ー ト す る こ と が で き、昨 年 4 月 か ら は 泌 尿 器 科 に 女 性 医 師 が 1 人 加 わ り ま し た。乳 腺 セ ン タ ー、外 科 に も 女 性 医 師 を 増 員 し、体 制 を 強 化 し て い ま す。

く だ さ い」と 昨 年 7 月 に イ ン タ ー ネット で 寄 付 を 呼 び け だ した と ころ、2 カ 月 余 り で 目 標 金 額 8 0 0 万 円 を 上 回 る 1 2 0 0 万 円 も の 寄 付 を い た だ き ま し た。

**中堂** 済生会に期待し、支援しようという地域の皆さんの気持ちが込められていますね。

**花村** 「一人でも多くの患者を見つけてもら



全国初！発達支援が受けられる

保育園留学



いつもと違う環境でも  
できる！を実感

小樽×済生会  
ウエルネスな  
まちづくり

発達支援事業所  
きつずてらす  
北海道

全国初の取り組みとして、発達支援に特化した「保育園留学」が昨年7月、小樽市で立ち上がりました。市と「地域共生社会の実現に関する包括連携協定」を結ぶ北海道済生会は、発達支援事業所「きつずてらす」での療育プログラムを提供しています。2月25日〜3月2日の1週間、利用1組目の家族が小樽への「留学」を初体験。その活動の様子や、家族の思いなどを紹介します。

株式会社キッチハイクが2021年から展開する「保育園留学」は、日常から少し離れた地

域に家族で1〜2週間滞在し、子どもが伸び伸びとできる環境で現地の保育園に通える暮らし体験プログラム。親は宿泊先でリモートワーク等を行ない、家族でワーケーションを満喫できます。

24年3月現在、全国40地域以上の留学先で地域性を生かしたさまざまなプログラムが実施されていますが、発達が気になる子どもを対象とした実施は今回が初めて。ソーシャルインクルージョンの実現を目指し、ウエルネスなまちづくりを共に推進する小樽市と済生会だからこその、特色ある発達支援プログラムです。



ヴィラの玄関前で、Sくんと父・永見和之さん。雪国暮らし体験はSくんにとって新鮮だったようで、毎朝お迎えの前に雪で遊んで大はしゃぎ！



宿泊先として用意された一棟貸しのヴィラ

療育プログラムと充実した施設環境が利用の決め手

利用1組目となった永見さん一家は東京都在住。システムエンジニア・和之さん、フリーラ



ンスライター・薫さん夫婦と、保育園長クラスに通うSくん

の3人家族。和之さんとSくんは今回が初めての小樽です。Sくんは発達が少しゆっくりで、言葉に対する理解が弱かったり、粗大運動（体全体を使った基本動作）がうまくできな

ったりという特性があるとのこと。人懐っこく穏やかなタイプで、日常生活ではそこまで困ることはないものの、集団に入るときには言葉の理解が追い付かず、うまく行動ができないことも。

普段は通常の保育園のほかに、ソーシャルスキルトレーニング中心の療育教室、言語聴覚士が指導する言語プログラム、病院での作業療法に通っています。

「今回、保育園留学を体験してみようと思ったのは、発達支援に特化したプログラムという点が大きいです」と薫さんは話します。「粗大運動用の器具が備わっていて感覚統合のトレーニングができること、療育スペースの広さなど施設環境が充実していることも決め手でした」

4月から小学校に上がったなら、新しい環境ではどんなかんじになるだろう？ Sくんの就学を控え、永見さんの心配や不安は積み上がっていました。「全く知らない環境に身を置く保育園留学を体験することで、見えてくることもあるかもしれない。そんな期待もあったと思います」（薫さん）

発達支援事業所「きつずてらす」での療育プログラムの例



大型複合商業施設・ウイングベイ小樽内に設けられた健康福祉ゾーン「済生会ビレッジ」。発達支援事業所きつずてらすもこの一画にある



光と音で感覚を刺激する療育機器COSMOを使った運動遊びでは、配置を調整し、二つの課題（走る、視線を動かす）を同時にこなう力や周辺視の力を養う



図形を探すゲームでは隠す場所を工夫することで、色などの特徴を見分ける力や、体の動かし方などを訓練

※「保育園留学®」は株式会社キッチハイクの商標です（特許取得済）



Sくんを預けている間、永見さん夫婦はリモートワークに精を出す。「来てみないと分からなかったことが本当に多い。でもそれが“生活する”ってことなんだと。ハブニングや不便さを含め“小樽生活”を楽しんでいます」



小樽入り前は札幌で1泊、留学期間中は「オフの日」を設定し小樽総合博物館や運河クルーズへ。“ぎゅっと”凝縮した豊かな家族の時間



宿泊先からは観光スポット「小樽運河」も「堺町通り商店街」も目と鼻の先。仕事の息抜きがてら周囲をぶらつくだけでもプチ観光に

小樽市保育園留学の案内登録フォーム(キッチンハイク)



かれています。施設での様子を具体的に知ることができ、今回の保育園留学を体験して永見さんは「小樽の土地柄もあるのか、思った以上に子どもが緊張感やストレスなく、周囲に馴染んで伸び伸びと活動できたことはとてもよかった」と振り返ります。また、普段の療育でできるように頑張っていたことが、

環境が変わってもなお、力を発揮できていたことが見えたのも、大きな収穫になったようです。

**「新しい一歩」を踏み出すきっかけになれば**

1組目の家族を迎え、本格的に利用が開始した小樽市の療育プログラム付き保育園留学。取

り組みの認知度はまだまだ低く、利用件数をどう増やしていくかは課題の一つです。

北海道済生会・ソーシャルインクルージョン推進室長の清水雅成さんは、「今後、療育を受けるのが初めてという家族も含め、さまざまな特性のある子どもを受け入れる体制を整備・強化し、特色をPRしていきたい」

と話しました。

24年度も継続して申し込みを受け付け予定で、希望に合わせ、日程調整を行なうとのこと(問い合わせ・申し込みはキッチンハイクまで:左記QRコード)。

「この保育園留学の療育プログラムを利用した家族が、新しい一歩を踏み出すきっかけになれば」(薫さん)



療育プログラムの最後は“ちょこっと”おやつタイム。皆で一休み



ウイングベイ小樽内の室内大型プレイランド「イカロスの城」。遊びの中で感覚統合訓練を行なえる。普段は体を動かす療育プログラムを嫌がることもあるというSくん、ここでは率先して楽しんだ

「1週間分の計画を事前に立てておくことはしていません。その日の活動を通してSくんの状況を観察・評価しながら課題設定を都度行ない、その場で適した内容のプログラムを組み立てています」(認定作業療法士・小玉武志さん)



保育園留学最終日にはオンラインビデオ会議ツールZoomで療育プログラムの振り返り。1週間でのSくんの評価・気づきなどを認定作業療法士の小玉さんから永見さんに伝える

**場所が変わったからこそ見えてくることも**

小樽での保育園留学の1日は朝9時半から。9時に宿泊先にお迎えが来て、11時半までは「きつずてらす」での療育プログラムの時間です。

「HUG」と呼ばれるシステムを介して、当日の活動記録や職員からのフィードバックを保護者(永見さん)に発信。内容はスマートフォンで確認でき、写真付きで詳細に書

11時半以降は小樽病院の院内保育所「なでしこキッズクラブ」へ移動して給食、午後の活動の時間。年少から年長まで20〜30人ほどの子どもが通っている。とて、とて、もにぎやか。Sくんは、まるでずつと一緒にとたかのよう、に皆に溶け込んでいた。お迎えが来る午後5時までこちらで過ごします。

なお、2施設からは



「皆で受け入れようという意識があり、子どもたちにも『仲良くね』と伝えました」(なでしこキッズクラブ保育士・左から梶ひろみさんと本間杏奈さん)



午後のなでしこキッズクラブでもすっかり周囲と馴染んでいたSくん。新しい環境でもやっつけられるという自信になれば

## 在宅訪問 栄養食事指導

〈大阪〉吹田病院  
栄養科 科長  
山中美緒

# 在宅高齢者の栄養状態を改善 悪化前に介入し 再入院を防ぐ！

当院には17人の管理栄養士が在籍し、入院・外来・在宅と三つの分野で栄養管理・指導を行なっています。入院患者さんにおいては在院日数が短縮されていく中で、低栄養状態で退院後に誤嚥性肺炎等で再入院を繰り返すケースがしばしば見られました。その状況を目的の「悪化する前に介入したい」という強い思いを受け、2016年から在宅訪問栄養食事指導を開始。1日4件を上限に月50件程度実施しています。

### 分かりやすく、楽しい 栄養指導を意識

訪問栄養食事指導は、病気や怪我、加齢などにより一人での通院が困難な人のためのサービ



筆者

スです。管理栄養士が自宅を訪問し生活環境・栄養の過不足を評価した上で患者さんの生活の実態や本人・ご家族の意向を把握しながら栄養状態の改善のための助言を行ないます。

具体的には、治療のために特別な栄養管理を必要とし（糖尿病・心臓病・高血圧症・低栄養・がん・摂食嚥下障害など）、当院から原付バイクで片道30分圏内に住む人が対象となります。訪問栄養食事指導では、数回の自宅訪問で患者さんの生活環境の確認や身体計測といったアセスメントを実施。訪問時には毎回、体重計や血圧計をはじめとした「七つ道具」を持参し、患者さんのバイ

## 教えて栄養士さん！ 在宅訪問 栄養食事指導編

在宅訪問栄養食事指導を患者さんやご家族、医療・介護スタッフにPR・説明するための紹介動画とパンフレット

**訪問栄養食事指導のご案内**

済生会吹田病院では、住み慣れた自宅での方らしい生活を送って頂くお手伝いをするために、管理栄養士による『訪問栄養食事指導』を始めました。

＜各種掲載ページ＞

紹介動画      依頼フォーム      集約書

大阪府済生会吹田病院

タル（体温や血圧など）チェックや身体測定に活用しています。3〜6カ月単位で目標を設定し、最大月2回の訪問を通して、目標に向けた栄養指導を行なっ



ていきます。患者さんの中には、食生活に不安を抱える人や独居の人も多くなっています。そのため、アセスメントの際は「栄養が身につけているか確認しますね」といった声かけをしながら、でき

るだけ分かりやすい内容での指導を心がけ、何気ない会話も大事にすることで楽しい時間になるように意識しています。指導後は報告書を作成し、主治医や担当ケアマネジャー、訪問看護師やヘルパーに情報共有を行ないます。当院の管理栄養士の1人である三輪花蓮さんは、日本栄養士会・日本在宅栄養管理学会が認定する「在宅訪問管理栄養士」



在宅訪問管理栄養士の三輪さん

の資格保持者。「どのようなことをしている管理栄養士なのか、地域や他職種へ伝わりやすくなれば」と資格取得を目指しました。

三輪さんは訪問栄養食事指導を実施する中で、高度低栄養で寝たきり状態の患者さんが経腸・経静脈栄養の投与内容や量、速度を調整することで歩行できるまでに栄養状態を改善した症例や、継続可能な食事管理方法を指導することにより1年で約30キロの減量に成功した肥満症例などを経験。患者さんだけでなくご家族も笑顔になる姿は印象深く、在宅療養の患者さんにとっての管理栄養士の意義を感じたそうです。

### 地域全体の 栄養サポート体制構築へ

これまでの在宅訪問管理栄養士としての活動を経て、三輪さんは「退院して自宅に戻る患者

さんは、その後の生活に不安を抱える人が多いように感じます。急性期病院である当院だからこそ把握できる入院中の状況や知識を生かし、患者さんが安心して在宅生活に移行できるように切れ目ないサポートの実現を目指しています」と話します。

- 嚥下内視鏡検査（嚥下障害のある患者さんが安全に食べられる食事形態を調べる）前に、担当歯科医へ患者さんの普段の食事や食べたい物について共有
- 昼食時に患者さんの自宅を訪問し、摂食状況や食べる姿勢を確認
- 栄養アセスメントの一環で、下腿周囲長を定期的に測定し低栄養がないかを調べる

ら地域の管理栄養士に患者さんを引き継げるような地域全体の体制構築に向け、取り組んでいます。



# 千里病院が済生会フェア



## 子どもメディカルラリーと済生会フェアがジョイント

子どもたちが応急救護の技術を競う「子どもメディカルラリー」と地域の人々に済生会の活動を知ってもらう「済生会フェア」の共同イベントが2月17、18日に大阪・千里病院で開催され、小学生40人が参加しました。同院は救命救急の現場で医療従事者が応急救護の技術を競う「メディカルラリー」を2002年に国内で初めて開催。2012年からは小学生がけがをした人などに適切な手当をすることができるようチームで救命活動を競う「千里子どもメディカルラリー」も実施しています。

17日は事前講習会が行なわれ、参加者はオンラインで119番通報や外傷処置、心肺蘇生法を学びました。

18日はラリー本番。2〜3人1組でチームを組み、設定されたシナリオを素早く正確にクリアして得点を競います。開会式で千里病院の中谷敬院長は「今日皆さんが参加してくれたことがとてもうれしいです。楽しみながら応急手当を学んでください」と挨拶しました。

子どもたちは公園や病院内に作られた応急手当が必要な場所を順番に訪れ、傷や打撲をリアルに表現する特殊メイクを施した傷病者役のスタッフに応急手当をしていました。

ラリーは午前と午後の2回行なわれ、救命措置を学ぶ子どもたちは真剣そのもの。惜しくも敗れて入賞できなかったチームの中には悔しがり、「またチャレンジしたい」と言う小学生もいました。

企画責任者で千里病院の伊藤裕介救命救急センター副部長は「これからは、けがをしている人や倒れている人を見かけたら、そばに行って声をかけてください。そして周囲の大人に大声で助けを呼んでください」と子どもたちにエールを送りました。

今回のラリーは済生会フェアとジョイント。誰一人取り残さない済生会のソーシャルインクルージョンの理念に合致し、ラリーの協賛団体の一つ「ドナルド・マクドナルド・ハウス」の病気の子どもとその家族を支援する活動や循環型リサイクルをとおしてSDGsを学ぶワークショップも行なわれ、ドナルドが子どもたちと一緒にクイズを通して楽しく話をしました。

午前と午後のプログラムの合間には、ゲストとしてタレントのサンシャイン池崎さんが登場。競技による緊張に包まれていた中でも、子どもたちはお笑いライブを楽しんでいました。

(本部広報課 河内淳史)

**ラリーで応急救護**

**フェアでは  
病気の子どもと  
その家族を支援する  
活動を学ぶ**

〈大阪〉千里病院



(大阪) 吹田病院派遣隊員提供

# 復興に向けて 能登半島 地震

令和6年能登半島地震の発災から3カ月。電気などのライフラインや主要道路の復旧、仮設住宅の建設が進む一方で、現在も8000人以上が避難生活を続けています。「はやく帰りたい」と願う地域住民のところに寄り添い、自宅での生活に戻ることを踏まえた継続的な支援が求められています。また地域医療を取り戻すための支援体制の構築も急務です。



静岡済生会総合病院派遣隊員提供



(栃木) 宇都宮病院派遣隊員提供



(千葉) 習志野病院派遣隊員提供

## 〈石川〉金沢病院

### 被災者一人ひとりの事情に 応じた生活支援を

医療福祉相談  
室長補佐(MSW) 若杉 彩

んは3月14日現在、延べ107人。27人の患者さんが入院しています。

私たちMSWも患者さん一人ひとりの生活事情に留意し、ソーシャルワーク(生活支援)に

当たることになりました。

入院する被災患者さんは着の身着のまま、ご家族と連絡が取れず、入院中に必要な物をそろえられない状況の人も多くいました。

そこで、生活困窮者支援事業推進委員会で話し合い、急遽、職員に向けて支援物資の募集を行なうことに。1月15〜19日の期間で受け付けたところ、衣服や肌着、靴下、タオル、毛布、おむつや生理用品などたくさんの物資が集まりました。

これらは入院中の人だけでなく、外来に受診している人、避難所にいるご家族にもお渡しし、避難生活の一助になるよう活動しています。

生活支援を通して、被災した患者さんからはご家族や近所の人を亡くした体験や、住まいや仕事、地域とのつながりがなく

なるなど一瞬にして当たり前の日常を奪われた体験を聞いています。そうした話には圧倒されるばかりで、MSWとして被災者の皆さんに何ができるのか戸惑いながらの日々ですが、一人ひとりの事情に応じた支援が届けられるように関わっていきたいと思います。



職員から集まったたくさんの支援物資

## 〈大阪〉吹田病院

### 被災者と地域への継続した支援 寄り添うことの大切さ、難しさ

大阪府医師会の要請により、吹田市医師会と当院で構成するJMATチームは3月9〜11日の3日間、被災地に派遣され活

動しました。チームメンバーはリーダー医師の西村クリニック

済生記者 橋本 茜

- ・西村与志郎院長(吹田市医師会)
- ・青山滉平研修医(吹田市医師会)
- ・中島友里看護師(吹田市医師会)
- ・小畑直也薬剤師(吹田市医師会)
- ・高元信二郎事務長(吹田市医師会)
- ・兼古望地域連携課長(吹田病院)

大阪府医師会チームは、金沢市以南に点在する避難所の巡回診療を実施。毎朝、JMA





支援に向かった診療所のみなさんと

被災した診療所では水などのインフラがままならない状態であつても、地域住民のために診療を継続。しかし、そこで働くスタッフも被災者であり、心身の疲れやあらゆる事情により退職を余儀なくされる方も多いの



DVT予防講習会開催周知のため避難所巡回(左)と、避難所でのDVT予防講習会

が現状です。そうした中で診療を続けていくことは困難を極めています。診療支援に向かった2カ所の



診療所での診療支援



循環式の水道(断水のため・飲用不可)

も含め、長期的な支援体制の必要性を感じました。

## 〈富山〉 高岡病院

### 地域医療を取り戻すために 継続的な支援が必要

産生記者

塚本崇基

富山県医師会からの要請を受け、当院から寺崎禎一医師(副院長)・福井達也看護師(看護主任/クリティカルケア認定看護師)・筆者(事務員、総務課・経営戦略室主任)の3人が、富山県JMATとして3月1~4日の4日間派遣され、珠洲市の保健医療福祉調整本部(市民ふれあいの里 健康増進センター)を拠点にその周辺エリアにある診療所の診療支援に携わりました。

同院では病棟業務の補佐として、保清、寝衣交換、食事介助環境整備、不穏患者対応、入院患者入室準備、リネン補充、ごみ捨て、採血ルート確保、おむつ交換、体位変換、内服介助血糖測定などに従事。また、同院は被災の影響で点滴以外の医療行為ができない状況にあるため、治療が必要な患者さんを金沢市や他県の医療機

関へ陸路・空路で搬送してしました。派遣を終え、佐野看護師と中田看護師は「災害時の物品の再確認や、実際に災害を経験した病院・施設との情報交換、講演会の開催、いろいろな場面を想定した防災訓練の実施など、日頃から病院として備えておくことが大切」と話しました。



佐野あゆみ看護師(左)、中田真美子看護師



厚労省からの要請に基づき、当院は佐野あゆみ看護師(1月12~17日)と中田真美子看護師

(1月17~22日)を能登半島の最北端にある珠洲市総合病院へ派遣しました。

T調整本部金沢以南地域調整支部(石川県庁内)会議で各都道府県から派遣されたJMATチームの活動エリアが決定され、当チームの主な任務はエリア内にある避難所の活動日誌と災害診療記録を確認し、ケアが必要なケースをピックアップすることです。そして、金沢市保健所との会議を経て決定された対象患者さんに電話で現状の聞き取りをして、必要に応じて訪問診

療を行ないました。活動を終え、兼古課長は「実際に助けを必要としている被災者の現状を、こちらから働きかけ、声を拾っていかねければならない状況だと感じる。被災地を継続して支援すること、被災者と地域に寄り添うことがいかに大切で、そして難しいか。課題を自院に持ち帰り、今後の活動につなげていきたい」と話しました。

## 静岡済生会 総合病院

### 日頃から病院として災害に 備えておくことが大切

企画・広報課 内藤早樹子



# リハビリテーション支援で 少しでも復興への力に

リハビリテーション  
技術部(理学療法士) 世古大輔



JRA T(日本災害リハビリテーション支援協会)からの派遣要請を受け、3月4~6日の3日間、当院の理学療法士3人・業務調整員1人が金沢市の1・5次避難所でリハビリテーション支援活動に携わりました。

1・5次避難所は

ホテルなど2次避難所に入るまでの一時施設として開設。しかし、高い高齢化率を背景に介護を必要とする方が多く、実際には2次避難所に移ることが困難

で長期滞在を余儀なくされる状況があります。そのような中で、各避難者の生活状況を確認し、必要な福祉用具の提案や集団体操への参加を促すなどの活動を実施。健康状態の悪化を防ぎ、2次のな障害を予防することに努めました。避難者に対して何ができるの

か―活動当初は不安がありましたが、避難者の方から感謝の言葉もいただき、少しでも復興への力になったことを心からうれしく思いました。また、避難者が地域生活に戻るために、リハビリテーション支援のニーズはまだまだ高いと感じました。

## 〈熊本〉熊本地震の経験も生かして 済生会かがやき 避難者に寄り添うDWA T活動

支援員 永野勇太

認知症の症状がある方の徘徊見守りなどを実施。また、石川県DWA Tからの補助依頼を受け、避難者へヒアリングをして石川県DWA Tに報告し住居移動等の手続き支援を行なうなど、チームで協力しながらさまざま



筆者と「DWA T」のピブス(ゼッケン)

な活動に携わりました。筆者が熊本地震で被災した際は他施設(放課後等デイサービス)で勤務しており、本人やご家族の方の不安に寄り添うということを学びました。今回はそうした経験をもとに、避難者に対してこちらから一方的に質問をするのではなく、これまで住んでいた環境のことや今後のことについて話を聞き、寄り添いながらコミュニケーションをとることを意識して活動に取り組みました。今回の派遣を通して、障害分野だけでなく、高齢分野や避難所の運営に関する知識なども身につけることができました。



## 福井県 済生会病院

# 自宅での生活に戻ることを 踏まえた関わりが大切

済生記者 田中一弥

日本看護協会からの派遣要請を受け、2月11~14日、当院の清水真代看護師(災害支援ナース)が金沢市・いしかわ総合ス

ポーツセンターに開設された1・5次避難所で支援活動を行いました。

同避難所にはおおよそ自立している方が約130人、介護が必要な方が約80人

入所(2月13日現在。医師・看護師・保健師・介護士・DMA Tなど多岐にわたる職種・団体が活動していました。施設内には診療所が開かれ、日中は医師が常駐していました。清水さんは「有症状者や転倒・転落者への対応、救急搬送や外部受診の調整、創部処置、内服介助や健康状態のチェックなど、避難所で行なう対応・介入はさまざま。毎日が慌ただしく、あつとい



う間に時間が過ぎました」と話しました。入所者はほとんどが自宅で暮らしていた方で、いずれはまたその生活に戻ることを踏まえた関わりをする必要があります。

「普段以上に対象者のADLを低下させない介入や、自立を促す支援の難しさとともにその重要性を再認識しました。避難所での活動は初めてでしたが、実践を通して災害看護の学びが深まりました」とも語りました。



日本看護協会の災害支援ナース第13隊の一員として、2月11~14日、13都府県から派遣された35人とともに金沢市・いしかわ総合スポーツセンターに開設された1・5次避難所で活動しました。

避難所では発熱下痢・嘔吐など感染症を疑う症状、慢性疾患の悪化が見られたため、感染症予

## 〈千葉〉生活者(避難者)を傷病者にしない

### 習志野病院 早期発見・早期対応が肝

看護部 7階東病棟主任 苦米地聖志

防対策や早期の往診依頼等の調整を実施。前隊の目標でもあった「生活者(避難者)を傷病者にしない」をモットーに、早期発見・早期対応を念頭に置いて活動しました。

派遣当時の避難所での生活者数は200人超。高齢者の割合

が高く、転倒、内服忘れ、褥瘡の発生、認知機能低下による徘徊といった事案も多くありました。

災害支援で求められる看護提議について改めて考えさせられる中、健康観察の継続に加え、感染症予防対策の強化、生活の

場としてのニーズの見直しを行ない、今必要なことは何かをディスカッションし行動に移す。4日間の活動での即席のチームではありましたが、一丸となって取り組めたからこそ、次の隊へスムーズにつながれたのではないかと感じています。

### 被災者自宅を訪問し

## 安否確認・生活状況調査

済生記者 川原彩花

1月31日～2月5日の6日間、医師1人・看護師1人・業務調整員2人で構成された当院DMAT隊が、2度目の被災地支援に当たりました。

今回の派遣先は珠洲市。活動初日は二手に分かれ、医師・看護師2人は珠洲市総合病院で夜勤業務のフォローを行ないました。業務調整員2人は珠洲市保健医療福祉調整本部で本部業務支援に従事し、翌日以降は支援物資を届けるため珠洲市総合病院へ。県外から被災地入りし支援にあたる人々のために、必要な資材の整備を行ないました。



さらに、地震で生じた亀裂や陥没など市内道路の状態を確認し、被害状況を踏まえた上で被災者の自宅を訪問。安否確認や生活状況の調査を実施しました。



活動に参加した木村拓哉医師は「震災から1カ月が経過してもなお残る被害の大きさを目の当たりにしました。被災地域の1日も早い復興を祈っています」と振り返りました。

### 長崎病院

## 「金沢に元気を届けたい」 壮行式で 看護師を送り出す

済生記者 平川幸子

金沢病院からの支援要請を受け、3月7～21日の2週間、当院透析センター・岩井由紀子看護師を金沢病院に派遣しました。同院では能登半島地震発災時から被災者さんを受け入れており、2カ月以上が経過した中、スタッフの皆さんが疲弊しているとの話も聞かれています。岩井看護師は、同院の皆さんの力になりたいと自ら志願してくれました。

となつて聞いて聞きます。体調に気を付けて勤務するとともに、全国済生会のスタッフとの交流も深めてほしい」と激励の言葉を述べました。



右から3番目が岩井由紀子看護師

# 総裁・秋篠宮皇嗣殿下ご来訪 被災者・職員にお声かけ

総裁・秋篠宮皇嗣殿下が2月14日、〈石川〉金沢病院に来訪され、被災状況や当院の災害支援活動をご視察。入院・通院している被災患者さんをお見舞いになりました。

はじめに、荒木勉院長らから

被災患者さんの受け入れ状況や、当院に隣接する「いしかわ総合スポーツセンター」に開設された1・5次避難所での支援活動などについて報告を受けられ、続いて、院内を回られました。被災患者さんからは発災直後

の状況をお聞きになり、お見舞いを述べられるとともに健康に気遣われました。高齢の患者さんは車椅子や椅子に腰掛けている面談でしたが、殿下はお顔を近づけて「大変でしたね」とお声がけされていました。患者さん

の中には感極まり、目に涙を浮かべる人もいました。また、全国の済生会病院からの支援看護師・薬剤師に対して感謝の言葉を述べられ、被災した当院職員へも励ましのお言葉をかけていただきました。殿下のご訪問は職員にとって大変名誉なこと。「勇気をいただいた」「明日からも頑張ろう」という気持ちが強くなった」などの声が多数ありました。

〈石川〉金沢病院  
総務課 山口 毅



支援看護師・薬剤師へのお声かけ



家族などが被災した職員へのお声かけ



患者さんへのお声かけ



総裁・秋篠宮皇嗣殿下、潮谷義子会長、松原了理事に荒木勉院長らが報告

# 和歌山病院が初のフェア



## 午前は講演会、午後は病院で体験イベント

センターのスタッフが「足を大切に！ 人生100年、100歳までしっかり歩こう」と題し、糖尿病や高齢により生じる足のトラブルを解説。日本ではまだなじみの薄い「足病」について、医師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、看護師が多職種連携で予防・治療・再発予防に取り組んでいる事例を紹介しました。

午後は和歌山病院で病院のお仕事体験や相談会などが開かれました。

医師や看護師と一緒に電気メスや縫合をする模擬手術、薬剤師と一緒にお菓子を薬に見立てた調剤体験、マネキンを使った心肺蘇生法の訓練などには小学生が親子で参加していました。他にも車椅子や松葉杖などを体験し介助の大切さを学ぶコーナー、医師や薬剤師による健康相談、医師や看護師のユニホーム体験&撮影、市消防局の協力の下、救急車の乗車体験など様々なプログラムが用意され、子どもから大人まで楽しんでいました。

参加者からは「済生会の取り組みがよく分かった」「地域になくはない病院だと思った」などの意見がありました。フェアの企画・運営を主導した廣瀬朱実副院長は「初開催だったが大勢に参加してもらいうれしかった。第2回も開催したい」と話していました。

この日は日用品などを売るバザーも実施。売上金は全額、能登半島地震被害支援のための義援金として石川県に送りました。

(和歌山病院 済生記者 松元靖寿)

特別講演では済生会の炭谷茂理事長が「誰ひとり取り残さない社会を作るために」と題し、「済生会は社会的孤立や排除の進行、貧困層の増大など現代社会が抱える課題に対して、自治体や企業・ボランティア団体などと連携して誰もが住みやすいまちづくりに取り組む」と語りました。

医療講演では和歌山病院の下肢総合診療

和歌山病院が2月25日に済生会フェアを初開催、健康や病院の仕事を楽しむ学べるイベントに地域住民約1000人が参加しました。

午前には病院近くの和歌山城ホールで講演会を実施。伊藤秀一支部長が開会挨拶、岸本周平県知事や尾花正啓和歌山市長の祝辞も紹介されました。続いて川上守院長が救急医療や災害医療など、和歌山病院の役割を説明しました。

和歌山病院

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。  
無料低額診療もなでこプランも、この中に含まれます。  
だれも排除されないまちづくりを目指し、  
全支部・施設が1600の事業を展開します。

# 買い物ついでに「ちょこっと健診」 イオン高岡に券売機設置

〈富山〉高岡病院



2月2日、当院に隣接するイオンモール高岡に、気になる項目だけ検査を受けられる「ちょこっと健診」の券売機を設置しました。

本事業は、本部のソーシャルインクルージョン事業化補助金を利用し、北海道済生会の指導のもと同会の先進的事業の一部を横展開する形で取り組んでいます。

券売機は東館2階・イオンホール前のエスカレーター近くに設置され、

2月2日、当院に隣接するイオンモール高岡に、気になる項目だけ検査を受けられる「ちょこっと健診」の券売機を設置しました。

本事業は、本部のソーシャルインクルージョン事業化補助金を利用し、北海道済生会の指導のもと同会の先進的事業の一部を横展開する形で取り組んでいます。

券売機は東館2階・イオンホール前のエスカレーター近くに設置され、

**県西部**

**買い物ついでに健診「予約」**

イオンに券売機「保健室」も開設

「北日本新聞」2024年2月3日掲載

券売機は東館2階・イオンホール前のエスカレーター近くに設置され、

併せて、毎週金曜（祝日除く）の午後2～4時には、看護師が

出向いて無料で健康相談に応じる「まちかど保健室」を券売機近くに開設しています。

（総務課 副主幹 道前久枝）



# 横浜・寿町の無料健診事業再開 「済生会はまた来てくれた」

神奈川県済生会

日本三大日雇い労働者街の一つである横浜市中区

寿町で、2月9日、生活困窮者無料健診事業を行ないました。

本事業は神奈川県病院のソーシャルワーカーの発案で2016年に開始。県内6病院で運営してきました

が、コロナ禍で中止して以降4年ぶりの実施です。

神奈川県済生会には健診車がないため、静岡県済生会の協力で静岡済生会総合病院から車両を派遣。また、横浜市や寿炊き出しの会等の協力も得て、横浜市寿町健康福祉交流センターの一画に診療所を開設し、63人が健診を受けました。

（若草病院 済生記者 長澤伸哉）

この4年間でさらに進んだ高齢化やコロナによる影響、昨年の夏の猛暑や今年の寒さで亡くなった人の話を聞きました。「コロナでアウトリーチから皆手を引いた。その中で、済生会はまだ来てくれた」という言葉もありました。

（若草病院 済生記者 長澤伸哉）



イオンモール筑紫野で1月21日「健康福祉フェア」を開催しました。

今回で4回目。講演会や血管年齢測定・骨密度測定などの健康測定をはじめ、看護師・管理栄養士・薬剤師など

健康測定は今回も好評で、延べ408人に実施。第2回から毎回参加している人もいました。

お仕事体験は小学生を中心に89人の子どもたちが看護師の仕事に挑戦。制服に着替え、お父さんやお母さんの血圧を測ったり、心臓の音を聞いたりしました。

また、「感染症予防のいろは」正しい感染症



# 健康福祉フェア・i'nイオン筑紫野 未来に向けた持続可能なまちづくり

による健康相談、子ども向けのお仕事体験を実施しました。

予防」をテーマに船津康弘看護課長（感染管理認定看護師）が講演。終了後には手洗い指導の実演を行いました。

来場者数は235人と前回は上回り、盛況でした。

（済生記者 久富大史）

〈福岡〉二日市病院

## SOSの声をあげられない人に応える つなサポ出張相談会

〈栃木〉宇都宮病院・宇都宮乳児院

宇都宮市つながりサポート女性支援事業として、1月23日、女性のための出張相談会を城山地区市民センターで開催しました。

当日は同時開催に市の乳幼児健診が行なわれていたため、子育て真っ最中の人が多く訪れました。稲見一美地域連携課長以下5人のMSWが、経済的不安や子育て・介護、求職、治療、人間関係など34人のさまざまな相談に応じました。

今回の相談会では「SOSの声をあげられない人にとってこのような相談



「会はともありがたい」といった声もありました。悩みがあっても相談場所が分からず困っている人は多く、適切な相談場所に関する情報提供の必要性を感じました。

(地域連携課 秋山綾香)

## 困っている人を地域全体で支える つなサポ事業をNHKが紹介

〈栃木〉宇都宮病院

4月の「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性新法）」施行に先駆けて女性支援事業に取り組んでいる事例として、宇都宮市つながりサポート女性支援事業がNHKの取材を受けました。

1月23日に開催した相談支援活動の様子や、稲見一美地域連携課長へのインタビュー映像が、1月31日にNHKで放映。以前に相談対応した女性も登場し、「困っていることを複数抱え悩んでいたが、寄り添って一緒に考えてくれた」「つなサポの出張相談に勇気を出して行ってみて本当に良かった」など、生の声を聴くことができました。

稲見課長は「困りごとを抱えた人が、気軽に相談できる場所が増え、地域全体で支える仕組みが構築できるよう、今後も取り組んでいきたい」と結びました。

(地域連携課 秋山綾香)



## フードドライブで308点を職員から集めて松阪社協へ

〈三重〉松阪総合病院

済生会が目指す「どんな人も排除されない地域づくり」の取り組みとして、12月1〜15日、

「家庭で使い切れない、食べ切れない食品」を職員から集め、

## フードドライブで食料品110キロを寄付

群馬県済生会



群馬県済生会では、なでしこプラン事業として12月22日〜1月31日、2023年度2回目のフードドライブを実施。前橋病院医療福祉相談課が事務局となって当

松阪市社会福祉協議会を通じて地域の福祉団体やフードバンクに寄付する「フードドライブ」を行ないました。

3度目の実施となる今回は、お米やカップラーメン、缶詰やレトルト食品など合計308点の食品が集まりました。翌週には松阪社協へ寄贈後日、緊急食糧支援や子ども食堂等で活用すべく手配されました。

(医療相談室 MSW 奥村裕司)



院と老健あずま荘の職員が自宅にある食料品を持ち寄り、1月31日前橋市が運営する「フードバンクまえばし」に寄付しました。

今回は、調味料・レトルト食品・飲料水・お菓子など段ボール箱10箱分、米30キロの合計1

10・3キロの食料品が集まりました。フードバンクまえばしの職員の方からは「いつも助かっています」と感謝の言葉をいただきました。

(前橋病院 医療福祉相談課 持田莉美)



## 更生保護施設入所中の生活困窮者対象に無料健診



2月20日、更生保護施設入所中の生活困窮者を対象に、2023年度2回目の無料健診事業を実施しました。栃木県就労支援事業者機構が就労支援事業として送迎バスを用意。県内には更生保護施設が2カ所あり、今回は2施設から計14人が来院しました。宇都宮保護観察所や栃木県就労支援事業者機構とは、

平成21年度から継続して連携をしています。受診者は身長・体重・血圧・

視力・聴力・腹囲・肥満度を測定した後、採血・採尿・心電図検査・胸部X線検査も実施し、内科医が診察を行ないました。

受診者の男性の一人は「経済的に余裕がないため健診を受けることなく過ごしていたが、今回貴重な機会をもらえて感謝



している」と話していました。(地域連携課 秋山綾香)

〈栃木〉宇都宮病院

## うつのみやSDGsアワードでサステナブル賞

「うつのみやSDGsアワード2023」において、当院がサステナブル賞を受賞しました。宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム運営本部事務局が主催する同アワードは、SDGs達成に向けて取り組んでいる事業者・団体を表彰し、その取り組み内容を広く周知し事業者全体の実践促進を図ることが目的。今回、サステナブル賞を当院含む3団体、パートナーシップ賞を3団体が受賞しました。

2月22日、宇都宮市役所で表彰式が執り行なわれ、野間重孝院長が表彰状を受け取りました。その後、稲見一美地域連携課長(MSW)が受賞者フォーラムで取り組み事例を発表。稲見課長は「私たちがソーシャルインクルージョンに基づくまちづくりを推進することで、SDGs



の、誰一人取り残さないという理念を具体化し、地域課題への対応が社会を変える力になるよう、済生会創立の理念を実現し続けていきたい」と話しました。(地域連携課 秋山綾香)

## イオン筑紫野と共同開発 管理栄養士協力のコラボ弁当

当院とイオンモール筑紫野が締結する「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」の一環で、昨年5月から協力して開発に取り組んできたコラボ弁当が、この2月に完成しました。

価格は税抜き498円。コラボ弁当はイオンモール筑紫野をはじめ南福岡エリアの合計19のグループ店舗で、3月13日から31日まで販売。(済生記者 久富大史)

弁当の中身は「色付き十穀ご飯・麦ごはん」「銀鮭の塩麹焼き」「煮物(蓮根・人参・椎茸・いんげん)」「餡掛け豆腐ハンバーグ」「炒めなます」で、福岡県で実施されている減塩プロジェクトの基準も満たしたおいしい弁当に仕上げました。



〈福岡〉二日市病院

## 認知症に触れる「なでしこカフェ」

当院と長岡京市認知症対策推進室の共同企画により12月22日、認知症カフェ「なでしこカフェ」を当院なでしこホールで開催し、

約60人が来場しました。当日は、当院の認知症サポーター医・齋藤雅人医師が「認知症ケア・せん妄対策チームの取り組み」を発表。その後、神戸市室内管弦楽団副団長のバイオリニスト・井上隆平さんと京都市立芸術大学の学生3人による弦



楽四重奏で、「天国と地獄」「ふるさと」など11曲が披露されました。コンサートの様子は当院イン스타그램で公開しています。また、長岡京市地域包括支援センター4カ所の職員が、認知症施策や介護の相談窓口を紹介しました。(済生記者 白須優也)

京都済生会病院



## 山口刑務所で肝疾患の講演 受刑者が健康意識を見直すきっかけに



### 山口総合病院

ソーシャルインクルージョン事業として、当院消化器内科の日高勲医師が2月29日、山口刑務所の健康意識向上講座で講演を行いました。

テーマは「肝硬変や肝がんにならないために！〜生活習慣



の改善と肝炎ウイルス感染対策」。

肝疾患に関する幅広い内容で、267人の受刑者が真剣な表情で講演に聞き入っている様子が印象的でした。

講演後は「過去にC型肝炎と診断されている。最近の採血で

### 大分県地域生活 定着支援センター

## 更生を支える 地域の優しさ

1月、ある女性（Aさん）が更生保護施設を巣立ち、アパートで単身生活を始めました。

Aさんには精神疾患があり、生きづらさを抱え困窮する中で事件を起こして逮捕され、裁判を経て釈放されました。

当センターはAさんが逮捕された直後から支援を開始。単身生活はAさんの大きな目標でし



ついで考えるなど、受刑者が健康意識を見直すきっかけづくりができたと思います。

（医療社会事業室  
MSW 野崎希美）



## 神戸刑務所視察 刑余者支援について 積極的な意見交換

2月6日、全国済生会刑余者等支援推進協議会から13人が参加し、神戸刑務所の視察を行いました。

八代宏幸所長の案内で実際に受刑者が生活している部屋や医療施設など刑務所内を見学後、意見交換会を実施。神戸刑務所の刑務官以外にも関西の矯正施設

協議会の森川篤会長は再犯者の高齢化の現状や課題、「職親プロジェクト」等の刑余者支援団体との連携の進め方などを報告。今後の刑余者支援の活動について矯正施設職員と積極的な意見交換を行いました。

八代所長からは、出所後の生活になじみず、自分の居場所が持てない受刑者の現状や、再犯率増加の経緯等を説明していただきました。

設から福祉専門官や就労支援専門官など17人が参加しました。

協議会構成員からも多くの質問や意見が出され、再犯防止を含めた刑余者支援を考える大変有意義な時間となりました。

（事務局／奈良病院  
経理課 友田達郎）



八代所長からは、出所後の生活になじみず、自分の居場所が持てない受刑者の現状や、再犯率増加の経緯等を説明していただきました。

設から福祉専門官や就労支援専門官など17人が参加しました。

### 全国済生会刑余者等支援推進協議会



## 少年院の学生さんが育てた 立派な大根をいただく

静岡市郊外にある駿府学園（少年院）から引率の先生と4人の学生さんが、収穫した大根を携えて1月26日に来園しました。

なでしこプランの「少年院在院生奉仕活動の受け入れ事業」として、駿府学園には日ごろから当園の清掃活動や利用者さん支援の手伝いをし



てもらっています。

「丹精込めて育てた大根です」と学生さんから手渡された20本の大根は、園に立派で、磯部正施設長と利用者代表の

寺井義孝さんが受け取りました。

今回はみそ汁の具、ふろふき大根、おでんなどに調理し、皆でおいしくいただきました。

（済生記者 原 史乃）

静岡市桜の園

## 横浜金沢センターの他施設にも呼びかけ 子ども食堂への支援を強化

金沢子ども食堂“すくすく”様へお届けできました!!ありがとうございました!



### 〈神奈川〉若草病院

当院のなでしこプラン事業として、令和3年から「金沢子ども食堂すくすく」へ年2〜3回、職員からの提供物資を集めて届けています。昨年3月からは横浜金沢医療福祉センターの他施設にも呼びかけたところ、合わせて段ボール箱9箱余りの食品・学用品・衣類などが集まり、3月3日に「すくすく」へ届けられました。

「すくすく」は、主にひとり親家庭を対象に食品や生活用品の無償提供を行なうとともに、皆がホッとできる居場所づくり、育児相談や生活相談、子どもた



ちに向けたレクリエーション活動や学習支援にも取り組んでいる子ども食堂です。

物資を届けた日は「すくすく」の創立7周年記念イベントと重なり、いつもの倍近い人出が加まりました。

よいとさ保健室とは、当院・西条中央病院・村上記念病院・株式会社大屋の連携によるSDGs活動です。当日は、血圧測定・握力測定・骨密度測定・認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」などを行ない、健康や福祉に関心を持つ幅広い年齢層が150人ほど来場しました。

今回のイベントのために、3病棟の職員をモデルに起用し「コグニサイズ」指導用の動画を作成。今後、認知症予防に役



立てていけるよう老健や特養へ配布していきます。

(健診センター係長 横井小百合)

## きつずてらすを日曜に開放 リビングラボとしてまちづくり推進



### 北海道済生会

発達障害を持った子どもが将来の生業を見つけ出せるようにと開設した「発達支援事業所きつずてらすDine」。しかし、商業施設内という好立地にあるにもかかわらず日曜日はお休み。そこで、北海道済生会では実証



や研究の場を地域の生活空間に置く「リビングラボ (Living Lab)」に、休業日のきつずてらすを開放する試みを行なっています。

2月11・18日は3Dコンピュータグラフィック制作ソフトウェア「ブレンダー」の大人向け講習会。講師はプロの3Dアーティストで、初心者にも分かりやすくレクチャーしていきます。参

たが、経済的な余裕がなく、必要な生活用品をそろえることができないにいました。そこで、当センターが最近交流する県更生

保護女性連盟に相談。県内各地の連盟会員からたくさんの物品を寄付していただき、Aさんは安心して新生活を始めることが

できました。

「こんな私を応援してくれる人がいてうれしい」とAさん。こうした優しさは心に残るも

のです。Aさんに届いたあたたかい心は、彼女の今後の人生の大きな支えとなるでしょう。

(相談員 深川恵美)

## 4法人共同の「よいとさ保健室」に150人来場

西条市SDGs推進協議会主催の第3回 LOVE S A I J O ポイントフェスタが2月25日に開催され、当院は「よいとさ保健室」を出展し職員7人が参



### 〈愛媛〉西条病院







Text: 栗原潤子  
Photos: 安友康博

Hair & Make-up: 鶴原正二郎  
Styling: 作山直紀

## 日々新しく変わっていく自分を感じ、 さらにその先へ。それが舞台の魅力

「地球ゴージャス初参加のお話をいただいたのはすごく嬉しかったです。さらにびやかで迫力のある舞台公演の環境を一から作ってくださったの方に喜んでもらう。それを30年も続けているなんてすごいと思います」と初参加の喜びを話してくれた鈴木福さん。

プライベートではこの春から大学2年生。今回の舞台のキーワード「逃げたい!」について聞いてみた。「逃げたいこと、めっちゃあります。今ちょうど学校の最終課題レポートの締め切りがたくさんあって。でもキャンパスライフは楽しい。何かを極めたプロでありながら大学で

すずき・ふく 2004年生まれ、東京都出身。1歳で芸能界デビュー以降、数多くの作品に子役として出演、11年ドラマ『マルモのおきて』で注目を集める。同年ドラマ『妖怪人間ベム』で第15回日刊スポーツ・ドラマグランプリ助演男優賞受賞。近年は舞台『アカシアの雨が降る時』(23年)、映画『映画 仮面ライダーギーツ4人のエースと黒狐』(23年)、藤子・F・不二雄SF短編ドラマ『おれ、タ子』(23年・NHK BSプレミアム) など多ジャンルの作品に出演。俳優活動に加え2023年には朝の情報番組『ZIP!』(NTV) に最年少パーソナリティーとして抜擢されるなど幅広く活躍中。



### Daiwa House Special 地球ゴージャス三十周年記念公演『儚き光のラブソディ』

舞台の登場人物は生きていた場所も時代もバラバラの7人の男女。「ここはどこだ?」ひとり、またひとりと謎の白い部屋に集まる人々。彼らに共通するのは「逃げたい!」という強い感情。謎の白い部屋で展開する「儚くも力強い、希望が奏でる物語」、そして「一筋の光」とは……。

■作・演出: 岸谷五朗

■出演: 中川大志 風間俊介 鈴木福 三浦涼介 佐奈宏紀 保坂知寿/岸谷五朗 寺脇康文 ほか

《東京公演》4月28日(日)~5月26日(日) 明治座

《大阪公演》5月31日(金)~6月9日(日) SkyシアターMBS

さらに勉強している人もけっこういて、人間関係が広がりました。多忙な芸能活動と学業をしっかりと両立しているようだ。子役時代から多くの映像作品に出演してきた鈴木福さん。昨年出演したミュージカルではコミカルな演技や歌唱力を披露して新たな一面を見せた。

「舞台って同じことをやっていても、毎日違うんです。何かがバチッとハマって『できた!』みたいな瞬間があって。もちろん最初からできるのが一番ですけど(笑)。新しく変わっていく自分を感じながら演じられるのが舞台の魅力。毎日、演技を突き詰めて、さらにその先を目指して取り組みたいと思います」

明るくさわやかなキャラクターで知られる

鈴木福さん。昨年は朝の情報番組の

パーソナリティーに最年少で抜擢され、

同年出演した「カラフル」では、

ミュージカル俳優としての

評価も高めました。

4月の公演を前に舞台の魅力に

ついて伺いました。

# 鈴木福



FUKU SUZUKI



# 口福につぼん

吉井省一

す。しかし、パッケージが地味だったり、宣伝が足りなかつたりしたせいか売れ行きは伸びませんでした。また、コロナ禍のため、年間50万人以上が訪れていた糸島名物の牡蠣小屋への観光客も激減。糸島産牡蠣自体が危機的な状況でした。そこで立ち上がったのが、博多女子高の地域共創部の皆さん。彼女たちもコロナ禍で学校活動が制限されている中、糸島産牡蠣を救おうと動き出したのです。



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

## 糸島カキ味噌

糸島漁協×博多女子高校 福岡県糸島市

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

牡蠣という食材、意外と歴史があるのをご存じでしたか。1億年以上前から生息していたと言われ、食用としても古代ローマ帝国では兵士たちの栄養補給食になり、また日本でも縄文期の遺跡から牡蠣殻が発掘されるほど古くから食われています。現代人の私も、牡蠣が大好き。若い頃ニューヨークのグランドセントラルステーション構内の老舗のオイスターバーで食べたものも絶品でしたし、数年前に三重県鳥羽の牡蠣小屋でパケツ入りの牡蠣を焼いて、たらふく食べまくったものも美味でした。今回はこの牡蠣を使った逸品、地元的女子高生たちの努力と発想の結晶がここにあります。



ブリブリの食感と甘さが特徴の糸島産牡蠣。その魅力を全国の人たちに知ってもらうため、実際に牡蠣の養殖場で生産者に話を聞く博多女子高・地域共創部の皆さん

を聞いたり、加工場を見学したり、積極的に現場を取材してきました。こうした地道な活動の末、「糸島カキ味噌」

は「ピリ辛にんにく味」「ゆずコショウ味」と彼女たちが味の開発にも携わった「九州しょうゆバター味」が、彼女たちが考案した新パッケージで再登場。さらに、美味しく食べてもらうために独自のアレンジレシピの考案にも着手しました。地域共創部の皆さんは、他にも糸島産ふともずく、夜須高原産木酢などの地元食材を使った商品開発も手掛けてきました。また、牡蠣殻で作った土壌改良剤を家庭菜園などで利用してもらうための啓発活動が評価され、「エシカル甲子園（持続可能



筑前町夜須高原産の「木酢」を使ったママレードやピクルスの菓の商品開発にも参画。こちらもその豊かな味わいが注目されて人気上昇中

な社会の実現に向けて高校生たちがアイデアを競う大会）九州大会へも出場しました。

### 女子高生目線のレシピで新たなメニューも続々

この「糸島カキ味噌」は、原材料の約4割が糸島カキ（真牡蠣）という贅沢さ。まずは「ピリ辛にんにく味」を一口。麦味噌の中に刻まれて入っている牡



まずは、炊きたてのご飯にのせて、濃厚な旨みをじっくり堪能してほしい「糸島カキ味噌」。3種類の味はそれぞれ個性的なので、和洋中いずれの料理にもアレンジしやすい



スタート時から商品企画に携わったアジアン・マーケットの室井友希さん（左）と漁協・鹿毛課長

この他にもレシピがどんどん作れそう。皆さんも我が家ならではのオリジナルレシピを考案してみてください。

糸島カキ味噌3本セット  
[ピリ辛にんにく味、ゆずコショウ味、九州しょうゆバター味]  
内容量：110g×各1個 計3個  
2,398円（税込・送料別） 賞味期限……製造日から常温約180日  
お取り寄せ・お問い合わせは  
もっと福岡よかもんマルシェ（株式会社アジアン・マーケット）  
〒810-0011 福岡県福岡市中央区高砂1-20-18  
ヒエダデザインビル501  
TEL：092-524-8584  
ホームページからのお取り寄せはこちら



大量に出る牡蠣殻は100%リサイクルして土壌改良剤になり、畑にまかれて美味しい農産物を育てる。レシピを考案するかたわら、女子高生たちはこの循環型農業にも積極的に協力

蠣の旨みがぎゅっと詰まっています。コチュジャンの辛さと一緒にの風味のバランスも絶妙で、おにぎりの具にぴったり。「九州しょうゆバター味」はし

な味わいに仕上がっています。こちらは辛さがない分、お子様にも喜ばれそう。「ゆずコショウ味」は、九州名物の柚子胡椒を使った、和風な辛さが魅力。ピリツとした辛さ

が味を締め、柚子の上品な香りがほのかに後味として残ります。これら3種類は、いずれもご飯のお供としては言うことなし。しかし、博多女子高の皆さんが考案したオリジナルレシピで、美味しさの裾野はここからぐっと広がるのです。



# キュートなライトくん ♡オーちゃん

立ててかざることできるよ



--- 山折り  
- - - 谷折り  
↻ 裏返す

## 体

- 1 中心線を付けて、三角に折る
- 2 中心線に合わせて右側を前に、左側を後ろに折る
- 3 矢印部分をひらいて、三角に折り、180度回転させる
- 4 左側の上の1枚だけを中心に合わせて折り返す
- 5 左側の上の1枚だけを右の辺に合わせて折る
- 6 右側の上の1枚だけを中心に合わせて折り返す



- 7 矢印部分をひらいて、折りつぶす
- 8 裏側も⑦と同じように折りつぶす
- 9 図のように左から右へ折る
- 10 左の角を中心に合わせて折り(①)、図のように右から左へ折り戻す(②)
- 11 図のように右から左へ折る
- 12 右の角を中心に合わせて折り(①)、図のように左から右へ折り戻す(②)
- 13 表と裏の下の角をそれぞれ内側に折りこむ

## 顔

- 1 中心線を付けて、下の角を折り上げる (3cm)
- 2 下の辺を中心線で折り上げ、裏返す
- 3 左右の角を中心に合わせて折る
- 4 左右の角を折る (2cm)
- 5 下の角を折る
- 6 点線で折って、180度回転させる
- 7 点線で折り裏返す
- 8 下の角を後ろに折る (1.5cm)
- 9 前髪を好きな形に切って、顔を描く

## 完成

体と組み合わせて完成。髪や体にかざりをつけるとかわいいよ♡

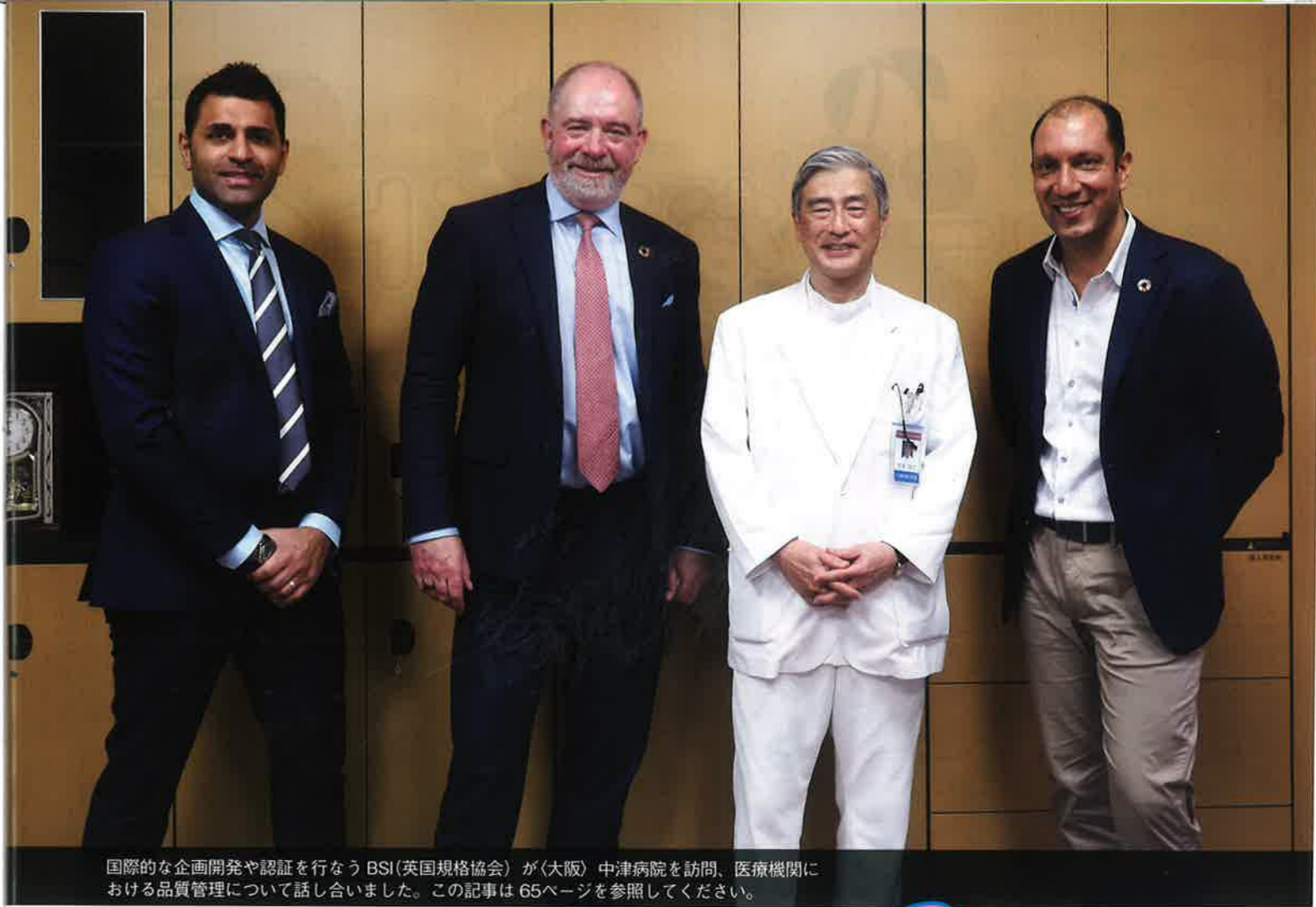


ライトくんの場合は、顔の⑦を折らないよ!

【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



国際的な企画開発や認証を行なうBSI(英国規格協会)が(大阪)中津病院を訪問、医療機関における品質管理について話し合いました。この記事は65ページを参照してください。

# topics

## 災害訓練ミニレクチャー 「まずは皆で動いてみよう」

〈奈良〉中和病院

電子カルテが使用できない状況でのカルテづくりと、トリア

当院DMA T隊長の総合診療科・大住周司医師主催による災害訓練ミニレクチャーが、2月13・21・26日に開催されました。全3回で、合計35人が参加。訓練内容は、災害時には、災害時に

13新設エリアの立ち上げです。筆者はカルテづくりの回に参加しました。3人1組のチームに分かれて役割を決め、簡単な説明の後「それでは各チームで考えてやってみよう」と早速、訓練開始。最初は焦る気持ちもあつてかうまくできませんでしたが、チーム内でコミュニケーションをとりながら続けるうちに、スムーズにできるようになりました。「誰もが読める字で、落ち着きながら素早く、ミスのないように」という基本的なことが、災害時はいかに難しいかを学ぶことができました。

(総務課 村田みちる)

★このような訓練・体験は何度も繰り返し行なって、身に染み付けることが大切です。ね。

(本部広報課 杉山菜央)

## 〈山形〉特養ながまち庄 「けあらーずカフェ開店！」

3月1日、地区のコミュニティセンターで「けあらーずカフェ」を開催しました。

カフェには地区住民15人が来店。大塚製薬が脱水の危険性について講義し、当庄デイサービス



ストショートステイの活動内容紹介の後、交流の時間を持ちました。

テーマは「私の近況」。参加者の明るい姿からは想像できない介護の苦労話や、地区住民の集いの場を作った人の話、健康を保つために頑張っていること

など、たくさんの人のお話を聞くことができました。

参加者からは「脱水予防の重要性が分かった」「夫を介護しているが話を聞いてもらえてよかった」「人との出会いの場であり、また参加したい」などの感想がありました。

(済生記者 高見友郁)

## 東神奈川リハビリテーション病院

### 理学療法士学会で奨励賞

2月4日に開催された第40回



## 〈滋賀〉守山市民病院 大本技師長に厚労大臣表彰

臨床検査科の大本和由技師長が、2月20日、公衆衛生事業功労者の厚生労働大臣表彰を受賞しました。

大本技師長は平成28年10月に入職し、翌年4月から技師長を務めています。入職後すぐに超音波検査の体制見直しに取り組み、検査の拡充と件数増加を実現。また、コロナ禍では次々と入る検査依頼にスタッフ一丸と

体制確立に尽力しました。

他方、滋賀県臨床検査技師会の理事を長年務め、公益法人認定取得に貢献。令和2年に会長となり、コロナ禍での県全体の



検査体制整備を牽引してきました。

さまざまな状況で前向きに責務を遂行してきた大本技師長。「困難な局面を乗り越えてこられたのも、周りの皆さんのおかげです」と謝意を述べました。

(済生記者 中嶋元香)



16年間おつかれさまでした

〈愛媛〉今治病院



当院で一番長く、16年間ボランティア活動に従事した山崎臣也さんが、3月末をもって勇退しました。  
2006年6月のボランティア活動立ち上げ時のメンバーで、御年85歳。ボランティア活動4000時間達成まであと40時間でしたが、体力の衰えから引退を決意したとのこと。

山崎さんの姿が見えないと患者さんから「山崎さんは？」と聞かれることも多く、山崎さん自身「ボランティア活動は生きがいであった」と言います。引退後は飼っている4匹の犬の世話で大忙しだと笑顔で話してくださいました。  
最後にボランティア活動の制服であるエプロンを着て、外

来てボランティアコーディネーターの村上和美さんと記念写真を撮影しました。  
(済生記者 日野美華)

〈三重〉松阪総合病院  
こども制服用体験  
ドクター・ナースに变身!

3月2日、松阪市社会福祉協議会松阪支所の「松阪支所まつり」に職員5人で参加しました。当院は幼児・小学生を対象に「变身!! ちびっこドクター・ナース コスチュームで变身!」ドクター・ナースになりき



てたくさん写真を撮ろう!」をテーマに出展。  
ユニホームに着替えた子どもたちは、ドクター・ナースになりきって写真撮影を楽しんでいました。また、お仕事模擬体験では、首のすわっていない体重3キロの赤ちゃん人形の抱っこや、オムツの替え・着替えの体験をしました。

一つひとつの動作ごとに「重たい」「大変」「難しい」という声が開こえました。この体験をきっかけに今後、少しでもドクター・ナースに興味を持ってもらえれば幸いです。  
(健診センター事務 主任 菌部修二)

〈神奈川〉横浜市東部病院  
看護師20人の合同修了式

看護師特定行為研修7期生(11人)と小児プライマリケア認定看護師教育課程3期生(9人)の合同修了式が、3月4日、当院で執り行なわれ、一人ずつ修了証が手渡されました。  
看護師特定行為研修室室長の渡邊輝子看護部長は「皆さんはチームを作る『キーパーソン』。特定行為修了者や認定看護師と



しての役割をこれからも伝え続ける必要があるが、誠実にケアを続けなければ必ず広がる。良いチームを作ってほしい」とエールを送りました。  
三角隆彦院長は「新しい資格を得て、新しいフィールドに立つた皆さんには、ぜひ学んだ知



〈埼玉〉川口総合病院  
「今年度もおつかれさま」  
納会で職員160人親睦

3月13日、川口駅前市民ホ



識とスキルを患者さんに還元してほしい。そしてここで培った人間関係を大切にしてください」と修了生を激励しました。  
(済生記者 荒木愛美)

ル・フレンドシアを貸し切り、今年度の労を互いにねぎらう「2023年度納会」を催しました。約160人の職員が一堂に会し、ビュッフェ形式でたくさんのおいしい料理を楽しみました。  
それぞれが普段あまり話すことがない他部署との親睦を深めたほか、佐藤雅彦病院長や名古屋恵子看護部長が各テーブルを回ると、職員たちも気がねすることなく話しかけ、盛り上がっていました。

今年度で退職される窪田研二副院長への感謝の会では、「イケおじ」「ダンディ」「優しい」など、病棟スタッフたちからの愛にあふれたメッセージがスクリーンに映し出されるすてきなプレゼンも。  
終始会場は笑い声に包まれ、あつという間の2時間でした。  
(済生記者 原 衣里奈)

〈新潟〉三条病院  
ホームページを  
リニューアル

広報委員会が1年ほど前から計画してきたホームページのリニューアルが完了し、3月1日



に公開しました。  
目指したのは「見やすい・利用しやすい・利用しやすいホームページ」。県内の他病院や済生会グループのホームページを参考に、レイアウトやデザインを見直しました。また、スマートフォン・タブレットに対応し、閲覧数の多い項目をトップ画面に設置。利用者のニーズに応えたホームページに仕上がったと自負しています。

早速、利用者から「知りたい情報がすぐ見つかった」「適度に写真が使用されていて見やすい」といったご意見をいただきました。  
(済生記者 丸山良樹)

〈埼玉〉川口総合病院  
看護師合同説明会  
当院ブースに30人



ロイヤルパインズホテル浦和で2月11日に行なわれた「看護師・助産師新卒向け合同説明会」(ナース専科主催)に59病院が集結し、当院もブース出展しました。

当院看護部からはベテラン看護師の瀬田とも子部長補佐、成川陸美副部長、看護師1年目の中村日和さん、星島紗来さん、事務部から筆者が参加し、その日のオリジナル法被を着て当院の魅力を熱弁しました。

うれしかったのは、全体参加者約330人のうち約30人の学生さんたちが当院ブースに足を運んでくれたこと。

質疑応答で得た「気づき」を採用戦略に盛り込みながら、今後も多くの学生さんたちに当院で働きたいと思ってもらえるよう採用活動に尽力します。

(人事・総務課 本橋和宏)

〈愛媛〉西条老健いしづち苑  
社協から2人へ表彰状

昨年11月18日、福祉活動に永

年貢献したとして、当苑職員2人が西条市社会福祉協議会から表彰されました。

当苑設立以来30年以上に渡り介護支援専門員・管理者として勤務している久保邦枝さんと、ホームヘルパーステーションのサービス提供責任者・管理者として約18年間勤務している森田和子さんの2人です。

2人は「今までいろいろな大変なこともありましたが、こんな



すばらしい賞をいただき大変感謝しています。今後も地域の福祉・医療の連携や高齢者の生活サポートに貢献していきます」と喜びと意気込みを語ってくれました。

(事務長心得 曾我部晴美)

神奈川県病院  
心不全ってどんな病気？

コロナ禍で中止して以来4年ぶりとなる市民公開講座を、2月16日に当院講堂で開催しました。

テーマは「心不全」。予想を上回る83人の地域住民を前に、循環器内科の水澤真文医師が講演しました。

その後、滝佐知子心不全療養指導士と人見加奈子管理栄養士、渡邊稔文管理栄養士による個別相談も行なわれ、こちらも大変好評でした。アンケートの結果では、初めて来院もしくは久しぶりに来院した人が約半数を占め、地域住民の健康意識の高さがうかがえました。

参加者からは「心不全についてあまり知らなかったので参加してよかった」「別の講座の開催も楽しみにしています」とい

いのちかがやく  
子ども美術展

〈愛媛〉松山乳児保育園

愛媛県美術館で2月16日、第11回いのちかがやく子ども美術展を開催しました。

コロナ禍のときは保育園内で行なっていたため、美術館での展示は4年ぶり。3室に0歳から2歳児までの絵画169点、全身ス



った言葉をいただくなど、地域の皆さんにも病院にとっても有意義な講座となりました。

(医療連携室 寺元早紀)



クリブル(大きな帆布やロール紙に自由に描いたもの)の作品10点を飾り、自然素材での遊びや絵を描いている様子の写真443枚をプロジェクトで映して観てもらいました。

来観者は3日間で425人。

「子どもたちの生きる力を感じました」「子どもが主体的に遊んでいるからこそ、それが絵に表現されているんですね」「自分も子どもになり一緒に遊びたい」などたくさん感想をいただきました。また、当園を知ってもらうよい機会になりました。

(活生記者 別府絵里)

〈大阪〉富田林病院  
地域医療講演会で  
乾燥肌の疑問に答える

株式会社URコミュニティと当院の共催で、本年最初の地域医療講演会としてスキンケア講座「この冬に気をつけたい乾燥肌」を1月22日に開催し、23人が参加しました。

乾燥肌は生活習慣や食生活が影響することもあり、放置すると肌のバリア機能が低下。皮膚疾患や敏感肌を引き起こすこともあります。そんな乾燥肌の疑



問について、当院の皮膚・排泄ケア特定認定看護師の加藤雪絵師長が分かりやすく解説しました。

講演終了後には「背中に保湿剤をどうやって塗ればいい?」「体を洗うときにナイロンタオルは使ってもいいのか?」と実際の場面を想定した質問があり、皆さん関心を持って聞いていました。

(皮膚・排泄ケア特定認定看護師 加藤雪絵/企画広報 島崎寛将)

〈大阪〉中津病院  
病診連携勉強会等に85人

当院南棟3階に移転・改装した大講堂で2月17日、第23回病



診連携勉強会・登録医総会を開催しました。

当日は、院内外合わせて85人が出席。志手淳也院長の開会挨拶から始まり、新任副院長・部長の就任挨拶も兼ねた診療科紹介、地域連携のDX推進に関連した「VDIS・Web予約システム」の案内、最後に2月から稼働した「脳・心・血管治療センター」の紹介と内覧会が行なわれました。

内覧会終了後、4年ぶりの情報交換会を当院レストランで開催。日頃電話やFAXでのやり取りが多い地域の先生方と久しぶりに対面で話すことができ、終始和やかな雰囲気での会を終えました。

(病診連携室主任 古田みゆき)



2月29日、消化器内科主催による研修医向けのハンズオンセミナーを開催しました。オリンパス社から当院にEU

Sトレーニング用ファントムと新型のラジアルEUSスコップが貸与されたこの機会に、研修医にもっと内視鏡の楽しさを

### 研修医のための内視鏡実践研修

熊本病院

「人材育成」「ケアの質の向上」などのテーマで研究成果を発表するもので、今回は山形済生病院南館と各施設をオンラインでつなぐ初のハイブリッド形式での実施となりました。

8チームが発表を行ない、審査の結果、最優秀賞は「おふろがイヤ」から「おふろにはいるたい」へ変わった児童の事例を通して（乳児院はやぶさ）に。そのほか「♡（いいね）が私たちの力になる〜インスタグラムの可能性〜」（フローラさいせい）といった広報活動に関する発表や、山形済生病院の看護師による「人工関節全置換術当日離床における現状と課題」をテーマにした発表がありました。

（管理課長 工藤 誠）



〈長野〉佐久市特養

シルバークラウドみつい

### お礼は「ピーターパン」

当施設が参加している、地元・佐久市立東小学校の児童登下校時の見守り活動のお礼として、3月5日、同校の3年生42人が当施設を訪れ、ミュージカル「ピーターパン」を披露してくれました。

子どもたちがアイデアを出し合って完成させたというミュージカルを鑑賞した40人ほどの利用者さんからは「感動した」「うれしかった」「また来てほしい」などの声が上がりました。

子どもたちの元気な姿から、利用者さんも元気をもらった様子でした。

（済生記者 大森 智）

〈山口〉下関総合病院

### 「なでっこの心」を語る

「第1回新採用者なでっこの心を語る会」を当院3階講堂で1月12日と19日に開催し、両日29人の2023年度新採用者が自身の体験を発表しました。

2023年度新採用者はコロナ禍の影響もあり、入職時に患



もううれしかったという気持ちを忘れず、これからも患者さんに寄り添う看護とは何かを追究していつてくだささい」とエールを送られ、皆さんとても晴れやかな表情でした。

（済生記者 下村桂子）

〈山形〉特養山静寿

### 4年ぶりのケアフォーラム

2月17日、「山形県済生会ケアフォーラム」が4年ぶりに開



催され、約70人が参加しました。若手職員の能力向上と自主性を育むことを目的に「業務改善」

体験してもらいたいとの思いで企画したものです。

当日は内視鏡室に三つのブース（上部内視鏡モデル、下部内視鏡モデル、超音波内視鏡モデル）を設置。消化器内科の医師立ち会い・指導のもと、5人の研修医に自由に機器に触れてもらいました。

いずれのモデルも、実際の検査と遜色ないとてもリアルな作り込みになっており、所要所で歓声が上がると、充実した講習会となりました。特に胆脘EUSはなかなかトレーニング用のモデルがないため、看護師から科のドクターまで興味津々でブースに立ち寄っていました。

（企画広報室 森本通子）

〈滋賀〉守山市民病院

### 小中学生の課題を考える コロナ禍以降初の公開講座

2月17日、市内小中学校・子ども園の先生を対象に公開講座「小児科から見た現在の小中学生の課題を考える」を開催し、15人が参加しました。

講師を務めたのは、小児発達外来を担当する上羽智子医長。



かった」「他の職員や保護者にも聞いてほしい」と好評でした。なお、会場となった当院の「くすの木ホール」（新館1階）は、公開講座などでの活用も見込んで令和2年4月にオープン。コロナ禍もあり、今回が初めての使用機会となりました。

（済生記者 中嶋元香）

〈三重〉 明和病院

献血で「貢献したい」

当院で献血を2月22日に実施し、明和グループから15人が献血に参加しました。  
献血への協力は三重県赤十字血液センターからの依頼によるもので、今回で2年連続の実施となります。中には「昨年できなかったので、今回は貢献したい」と参加した職員もいました。献血は、病气やけがの治療に必要な輸血や血液製剤製造において欠かせないもの。現代の医療が進歩しても、血液はまだ人工的に作ることはできません。



血液事業の根幹は、善意の献血で支えられています。明和グループでは少しでも協力できる

ように、今後も定期的に献血を実施していきます。  
(済生記者 藤岡拓人)

ダヴィンチXi 導入後  
1例目の患者さんが退院

〈大阪〉 千里病院

手術支援ロボットの「ダヴィンチXi」を昨年末に導入し、2月から運用を開始。この度、1例目の患者さんが無事に退院しました。  
手術支援ロボットの「ダヴィンチXi」を昨年末に導入し、2月から運用を開始。この度、1例目の患者さんが無事に退院しました。  
泌尿器科の今津哲央副院長は「より精緻な手術治療が可能となり、消化器外科や婦人科でも実施計画が進行中です。今後も充実した地域医療を行なっていく予定です」と話しました。  
(済生記者 秋山みゆき)



山形済生病院  
管理者研修に49人  
活発な意見交換

医師・管理職等を対象に、3月9日、経営に関する管理者研修を当院で開催し、49人が参加しました。

研修の目的は「診療報酬改定



の最新情報を理解する」「全所属の幹部・管理者が参画して当院の現状とビジョンを共有する」「当院の中長期的な病院像について病院全体でディスカッションする」の3点。

はじめに石井政次院長が当院の現状について、続いて株式会社CCUC・池田周一氏が診療報酬改定について講演し、その



〈山形〉 はやぶさ保育園  
消防士ってかっこいい！

3月5日、当園の5歳児24人が市民防災センター（山形市西消防署）を見学に出かけました。

後は三つに分かれグループプレイスカッションを実施。テーマに沿って、各グループで活発な意見交換が行なわれました。  
(済生記者 小山結花)

「地震体験」では、実際に震度2〜4の地震の揺れを体験。はじめは落ち着いた表情を見せていた子どもも、揺れが強くなるにつれて怖さを感じたようでした。

「消防士なりきり体験」では実際の防火服を着用。その重さを感じつつ、消防士に憧れを抱く姿も……。

その後、消防車、救急車、指揮車、はしご車、ポンプ車などさまざまな種類の車を見て、それぞれの役割を覚えてもらいました。

終始大興奮の子どもたちでしたが、今回の見学を通してさまざまなことを学び、お友だちとも学んだことを共有し合う姿が多く見られました。  
(済生記者 齋藤里奈)

〈埼玉〉 川口総合病院  
ヤングケアラー支援を  
考える

2月29日、当院講堂で生活困窮者支援研修会を開催し、約40人の職員が参加しました。11回目となる今回はケアラー連盟代表理事の堀越栄子氏を講師に迎え、「ヤングケアラーの現状と必要な支援」をテーマに講演を

お願いしました。

埼玉県では全国初のケアラー支援条例が策定されており、ヤングケアラー支援の取り組みが進んでいます。それだけに堀越氏の講演はとても興味深く、MSWとして「自分でできることは何か」「ヤングケアラーへの配慮の視点を持って世帯をアセスメントしていたか」と自身を振り返るよい機会になりました。

まずはヤングケアラーについて知ることで、そして声をかけること、寄り添うことを心がけていきたいと思えます。

(医療福祉事業課 MSW

石川妃登美)



〔福岡〕二日市医療福祉センター

メルヘン世界の贈り物

福岡女子短期大学から二日市医療福祉センター（二日市病院・特養むさし苑）に、2月20日、ジンジャーブレッドハウス二つ（二日市病院に一つと特養むさし苑に一つ）の寄贈がありました。



ジンジャーブレッドハウスは固焼きクッキーを材料として、ミニチュアのメルヘン世界の家を作り、そこにチョコやフルーツゼリーアイシングなどで装飾を施したものです。同短期大学で

は卒業制作の一環で作っています。

材料はすべてお菓子なので本来なら食べられるのですが、今回は長期間展示するために表面にニスや塗料を塗り防腐処理を行っており、残念ながらいただくことはできません。

とはいえ、カラフルでかわいい作品に、利用者さんは目から癒される気になりました。

（済生記者 久富大史）

〔大阪〕千里病院

「一緒に認知症マフ、作りませんか？」

3月14日、看護部認知症看護委員会の企画により「第1回認知症マフ作成講習会」を当院で開催し、編み物好きのボランティア12人が参加しました。

認知症マフはカラフルにデザインされた円筒状のニット小物で、手を通してニットに付けられた毛糸のポンポンや飾りに触れることで、認知症の人が安らぐ気分になるといわれています。自宅に余っている毛糸や装飾になる小物を募ったところ、たくさんのお贈りがありました。当日集まったボランティアた



ちは、好きな毛糸を選び、机を囲んで和気あいあいとおしゃべりを楽しみなが、思い思いに編み針を動かしました。

なおこの企画は、福岡総合病院の保利京子認知症看護認定看護師の助言のもと、同院の取り組みを参考に組み立てました。

（済生記者 秋山みゆき）

〔鳥取〕境港総合病院

地元企業とSDGs実現に向けて取り組む

2月29日、当院会議室で「鳥取銀行SDGs私募債ふるさ



と未来応援債」の発行記念寄付目録贈呈式が開催され、地元企業の株式会社上野水産から心温まる寄付をいただきました。地域に密着した当院のさまざまな取り組みを応援したいとお申し出があり実現。佐々木祐一郎病院長は「今回いただいたご厚意を有効に活用し、引き続き地域医療を守ってまいります」と謝辞を述べました。

（済生記者 亀尾美子）

ナースिंगアシスタント特集放映

〔東京〕中央病院

3月23日、日本テレビ「ストリートニュース」で当院ナースिंगアシスタントの特集が放映されました。医療従事者の人材不足が課題となる中、注目されづらかったナースिंगアシスタントにスポットを当て、看護補助業務の魅力ややりがいなどを伝えています。

は4年ぶりです。当日は、現在当院に65人いるナースिंगアシスタントの仕事に密着。退院後の病室清掃や、患者さんが使う車椅子などの器材点検のシーン、当人や清水和美術師長へのインタビューなどを撮影しました。最初は皆さん緊張した様子でしたが、徐々にカメラにも慣れ、普段から行なっている業務をてきぱきこなす様子が見られました。

（広報室 鈴木香純）

地域ケア会議に18人テーマは「ごみ問題」

〔兵庫〕特養ふじの里

1月23日、有野台・東有野台地区の地域ケア会議を有野台地域福祉センターで実施し、地域の関係者4人を含む18人が参加しました。

高齢化が進展し、さまざまな課題が発生する当地区。23年度にごみ問題に焦点を当てて住民向けのアンケートを実施したところ、約6割がごみ出しに困難を感じていることが分かりました。そこで、今回の地域ケア会議では、ごみ問題の背景にある要因を検討し、今後について情報共有を行いました。

ごみ問題の背景にはフレイルや認知症等があり、それらの予防を図っていくために、高齢者が集まる「つどい場」での後方支援や声かけ訓練、認知症サポート養成講座などの開催を行なっています。

（ありのあんしんすこやかセンター 社会福祉士 小俣文佳）



〈兵庫〉ふじの里デイサービスセンター

2月16日、ふじの里デイサービスセンターで避難訓練を行いました。

今回は地域密着型デイサービスの運営推進会議を開催中に火災が発生したと想定。自治会、民生委員、ボランティア、家族等の地域住民5人とデイサービスの職員が力を合わせ、利用者さん30人を避難誘導しました。訓練後には「建物が多く、離



れた場所での出火の場合、高齢者は慌てると転倒の危険があるので、すぐ避難するより動かな

# topics



栃木県と日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会栃木県地方部会の主催で、3月3日、「耳の日」にちなんで「難聴をあきらめない」補聴器による脳のトレーニングで聞こえを取り戻す！と題した講演会が当院で開催されました。

当日は約250人の聴衆を前に、耳鼻咽喉科・新田清一医師が加齢性難聴について講演。難聴が起こるメカニズムから、高齢者の認知症やフレイルなど難聴が与える影響、当院で

## 難聴をあきらめない「宇都宮方式聴覚リハ」

〈栃木〉宇都宮病院



実施している補聴器トレーニング「宇都宮方式聴覚リハビリテーション」、補聴器の基礎知識や選び方まで、幅広く解説しました。

講演後は、難聴の予防や補聴器を検討するタイミングなど、来場者から多くの質問が挙げられ、耳の病気への関心の高さがうかがえました。

（活生記者 川原彩花）

## 能登半島地震におけるDMAT活動を報告

滋賀県病院

3月12日、能登半島地震にお

金沢市内の一時待機ステーションでの避難所支援について、第4次隊からは県庁（金沢以南保健医療福祉調整本部）での本部活動について、それぞれ活動写真を踏まえながら、実際の現場の状況や活動の様子を伝えてくれました。

（活生記者 西澤真由美）



ける当院のDMAT派遣についての報告会を院内職員対象に実施し、61人が参加しました。

当院は県からの派遣要請を受けて1月4日から約1カ月間、計4次隊までDMAT派遣を行ないました。

第1次隊からは被害の大きかった珠洲市での病院支援について、第2次隊・第3次隊からは

## 認知症出張講演会に65人

〈大阪〉富田林病院

久野喜台校区北福祉委員会と梅の里南自治会から依頼を受け、1月16日に五軒家総合会館、30日に梅の里西集会所で認知症に関する出張講演会を実施しました。

講師として、当院認知症看護認定看護師の小西早苗師長が登場。「認知症の方に現れやすい症状やその対応方法」「寄り添えば気持ちが通う認知症」というテーマで、地域住民65人に認知症患者さんへの対処法を伝えました。

（企画広報 島崎寛将）



## 多国籍のナースングアシスタントが仲間入り！

〈東京〉中央病院

3月4日、当院看護部にスリランカのハンシさん、ミャンマーのウェイさん、ネパールのプザさん、ダンスさん、カデルさんの計5人が入職しました。

5人はナースングアシスタントとして、患者さんの搬送や部屋の清掃などの看護補助業務を担当。ゆくゆくは患者さんのケアや、夜勤業務を担当する予定です。

言葉の違いによるコミュニケーション等の課題もあり、現在は一日の終わりに看護部でミーティングを実施し、日々の仕事のフォローを行っています。

ナースングアシスタントの先輩方からは「仕事を覚えるのが早く、きれいな日本語を使うので、私たちも見習いたい」とのお褒めの言葉もありました。港区という外国人の多い地域柄、インターナショナルな活躍を期待しています。

（広報室 鈴木香純）

## 地元FMラジオで「研修医のいま」を発信

新潟病院

FM-NIGATAの「医療の広場 RADIO」病院 Special」に当院職員が出演し、3月17日に放送されました。3回シリーズの第2回で、今回のテーマは「研修医」。当院には4月1日現在21人の研修医が在籍しています。

トップバッターは坪野俊広副院長兼教育研修センター長。当院の臨床研修の特徴などについて解説しました。

2人目は研修医1年目の米倉



暢拓医師。直接人の役に立ちたいと医師になりました。研修医になってからのエピソードをプライベートも含め披露しました。

3人目は研修医2年目の島田剛医師。スタッフからの信頼が厚く、病院経営にも興味を持っています。研修での学びや今後のキャリアについて話しました。

患者さんや地域の皆さんに「研修医のいま」を伝える大変貴重な機会となりました。

（総務課 吉川未織）



看護認定資格取得者2人誕生

〈鳥取〉境港総合病院

昨年11月、日本看護協会認定資格者が当院で新たに2人誕生しました。  
大田麻紀副看護部長（4月1日から看護部長）が「認定看護管理者」資格を、齋岡亜希子看護師が「感染管理認定看護師」資格をそれぞれ取得。

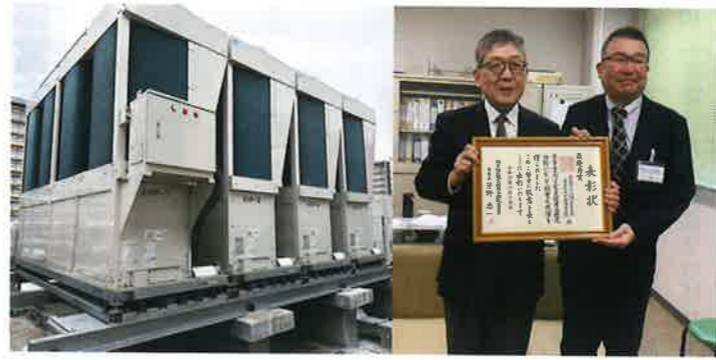
大田副看護部長



長は「より充実した看護を提供できるよう、マネジメントのエキスパートとして地域医療に貢献します」と今後の抱負を述べました。  
齋岡亜希子看護師も「患者さんや病院で働く職員の皆さんを感染から守るために活動し、感染対策の模範病院となるよう頑張ります」と力強く話してくれました。  
（済生記者 亀尾美子）

〈埼玉〉鴻巣医療福祉センター  
電力使用合理化で最優秀賞

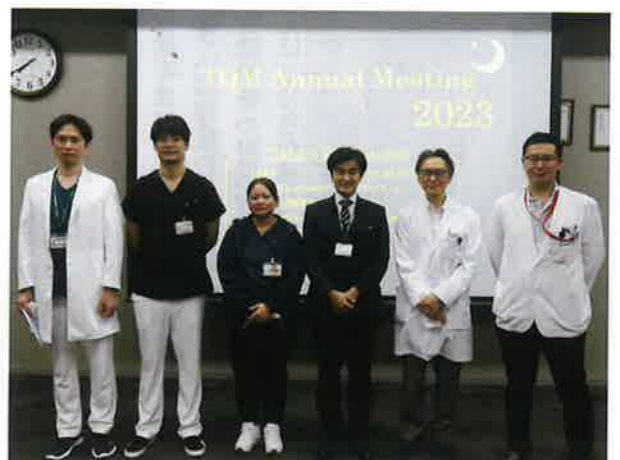
鴻巣医療福祉センターの2施設（鴻巣病院・老健こうのとり）は2月15日、関東地区電気使用合理化委員会から「エネルギー管理の優れた実績事業所」として令和5年度最優秀賞を授与されました。  
鴻巣病院は令和2年12月に、老健こうのとりは一昨年10月に、それぞれ熱源設備を最新のチラ



ーへと変更。設備の経年劣化に伴う修繕費の削減だけでなく、施設内の冷温水循環の効率化を実現しました。  
都市ガスから電気へのエネルギー源変更による電力使用量の増加も、チラーの効率的な運転が功を奏し最小限に抑えられています。  
また、職員全体の省エネ意識の向上も電力使用合理化活動の後押しし、今回の表彰につながったと思われます。  
（総務課 影山智英）

〈神奈川〉横浜市東部病院  
TQMの院内活動の理解深まる

3月1日、当院多目的ホールで「TQM Annual Meeting 2023」を開催し、52人が参加しました。  
演題は全部で八つ。三つのセッションに分かれて、院内急変を迅速に対応する RRT (Rapid Response Team) や OLS (骨粗鬆症リエンザンサービス)、運動器ケアチームの令和5年度の活動実績、呼吸器内科/9東病棟による誤嚥性肺炎パスの紹介などが行なわれました。



発表後はフロアからの質疑応答も実施。各取り組みへの理解が深まる充実した報告会となりました。  
本会に出席した三角隆彦院長は「発表された取り組みは院外からの評価も高い。院内でもぜひ広く知っていただきたい」とコメントしました。  
（済生記者 荒木愛美）

〈大阪〉吹田病院  
出産・子育てを孤立させない！取材で活動をPR

当院のソーシャルインクルージョン事業として、令和5年度

〈兵庫〉小規模特養までしこ  
おひなさまに負けない笑顔

3月3日、入居者さん28人、職員6人が参加してひなまつり行事を開催しました。  
まずはひな壇の前で「お花をあげましょう！ほんほりにいっしょ」と口ずさみながら写真をパチリ！おひなさまに負けないくらいのおひなさまに笑顔で記念撮影をしました。  
昼食は皆さん大好きなちらし寿司に、おやつは色鮮やかな菱形三食ゼリー！ペロリと平らげてご満悦でした。  
（介護士 吉田 聡）



吹田病院

HP「シंक」はこちら↓  
QRコード

から「おやこ健康サポートプログラム」（通称…なでしこキラキラWAY）の活動を始めています。  
支援が必要にもかかわらず届いていない妊産婦や子どもに対して、産前早期から積極的に働きかけ、産後もアウトリーチ型サポートを展開。院内多職種のみならず地域の関係各所とも連携し、課題の解決に向けて取り組んでいます。  
この活動が注目され、済生会本部が運営する「ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア」（愛称…シンク！）の取材を3月8日に受けました。取材には島俊英院長をはじめ、活動に関わる多職種メンバーが参加。活動開始の経緯や体制づくり、支援内容や日々の思いなどをお話ししました。  
近日中に同サイトに特集記事が掲載される予定ですので、ぜひご覧ください。  
（総務課 中川祐紀）

〈滋賀〉小規模多機能型居宅介護事業所済生会なでしこ栗東  
地域サロンで健康チェック

地域サロンを1月25日に開催し、地域住民16人が参加しました。当日は「第4回 明治安田生命大人の塗り絵コンクール」への参加を通して、明治安田生命が健康増進への支援の一環で無料貸し出しを行なっている検査機器で、脳年齢や血管年齢を測定。また、野菜の摂取量を測定する「ベジチェック」も実施しました。  
実年齢より若かったり高かったりする測定結果に一喜一憂する様子に、皆さんの健康への関心の高さが透けて見える気がしました。  
ちなみに、開催前に筆者ら職員も計測してもらったのですが、軒並み実年齢より高かったのは内緒です。  
（管理者兼介護支援専門員 宮下達也）



開設2年目を迎えました！！



春暖の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
この度、当ステーションは  
おかげさまで開設2年目に  
突入しました！  
これからも皆様にとって身  
近な事業所でありたいと思  
い、今回は事業所及び職員  
の紹介をしたいと思います  
(^-^)

まほろばは済生会病院のすぐ横にあります！！



病院に向かって右手にあります。ひょうきんなスタッフが多いので、事務所の中はいつもにぎやかです！お気軽にお立ち寄りください(\*^-^\*)

**職員の紹介**

**管理者 長谷 あけみ**  
職種：看護師  
趣味：草むしり  
一言：「思ふときはまほろばへ！」

**竹内 佳美**  
職種：看護師  
趣味：減量(効果出ず)  
一言：おまかせください(笑)

**長尾 くるみ**  
職種：看護師  
趣味：犬と猫  
一言：ペットのいるご家庭大歓迎(^-^)

**三木 征博**  
職種：理学療法士  
趣味：ソフトテニス  
一言：丁寧な対応を心がけます！

**山下一也**  
職種：理学療法士  
趣味：車  
一言：元気に頑張ります！

**行武 公美**  
職種：事務員  
趣味：柔道観戦  
一言：よろしくお願  
いします(笑)

**「まほろば」とは？**  
古事記の中で、「倭(やまと)はたるとる大和(おほの)の真(ま)なる山(やま)龍(りゆう)をしのんで歌(うた)わたりと依(よ)りて命(いのち)をたもててまほろば」とい  
「まほろば」とは、古事記の中で、「倭(やまと)はたるとる大和(おほの)の真(ま)なる山(やま)龍(りゆう)をしのんで歌(うた)わたりと依(よ)りて命(いのち)をたもててまほろば」とい  
「まほろば」とは、古事記の中で、「倭(やまと)はたるとる大和(おほの)の真(ま)なる山(やま)龍(りゆう)をしのんで歌(うた)わたりと依(よ)りて命(いのち)をたもててまほろば」とい  
その意味に負けないよう日々精進  
してまいります(笑)

**済生会 まほろば訪問看護ステーション**  
大分県済生会 日田病院  
TEL.0973-24-1100  
FAX.0973-24-1101  
〒870-0001 大分県日田市大分町1-1-1  
TEL.0973-28-5701(直線)

**topics**

〈大阪〉野江特養城東園  
天皇陛下から  
御下賜金を拝受



大阪市福祉局から1月25日に、  
当園が御下賜金の拝受施設に決  
定した旨の通知がありました。  
御下賜金は天皇誕生日に際し  
て、社会福祉事業御奨励のため  
優良な民間社会福祉事業施設・  
団体に對し、天皇陛  
下から金員が下賜さ  
れるものです。  
2月27日、伝達式  
が市役所本庁舎内で  
執り行なわれ、大阪  
市福祉局の坂田洋一  
局長から大阪府済生  
会副支部長・野江医  
療福祉センター総長  
の三嶋理晃先生に伝  
達されました。  
拝受した御下賜金  
と伝達書を1階ロビ  
ーに掲額すると来園  
者から多くのお祝い  
の言葉をいただきました。  
今後この栄誉を  
一層の励みに、入所  
者、利用者の方々に  
満足していただける

令和5年度の御下賜金(天皇  
誕生日に際し、民間社会福祉事  
業奨励のため天皇陛下から社会  
貢献のあった事業者に金一封が  
下賜される)の拝受先に当施設  
が選定されました。  
2月22日に県庁で、中村徳久



サービスを提供し、地域福祉に  
貢献すべく施設運営を行なって  
いきます。(園長 松山信幸)

〈三重〉医療型障害児入所施設  
なでしこ  
御下賜金の栄誉

子ども・福祉部長から山川紀子  
施設長と三重県済生会諸岡芳人  
支部長に、御下賜金と宮内庁か  
らの伝達状が手渡されました。  
創立後5年以上の事業経歴が  
あり、過去5年間に御下拝受先  
賜金を拝受していない施設・団  
体が推薦対象に。推薦数は各都  
道府県・各政令指定都市から1  
カ所とされています。  
当院は重症心身障害児・者や  
医療的ケア児・者を対象とした  
長期入所や短期入所等のサービ  
スを提供しており、地域におけ  
る重度障害児・者等の受け入れ  
施設としての貢献が高く評価さ  
れたことが今回の栄誉につなが  
ったと考えられます。  
(明和病院 済生記者 藤岡拓人)



大阪乳児院  
御下賜金を拝受

天皇誕生日に際して、毎年天  
皇陛下から社会福祉事業御奨励  
の思し召しをもって、優良民間  
社会福祉事業施設・団体に對し  
御下賜金が下賜されます。  
令和5年度、大阪府において  
は当院に下賜されることになり



2月20日、御下賜金伝達式が  
大阪府庁本館で執り行なわれ、  
讃岐富男大阪府済生会常務理事、  
川嶋成乃亮中津医療福祉センタ  
ー総長、今西裕子大阪乳児院院

「まほろば通信」はじめました

〈大分〉まほろば訪問看護ステーション

長が出席。渡邊  
繁樹大阪府副知  
事から御下賜金  
と伝達書を拝受  
しました。  
(事務局長  
藤原 俊)

「安心」「笑顔」  
「共生」、住み慣  
れた場所であな  
たらしく生きる  
ことを支えま  
す」を理念に活  
動する当施設は、  
早いもので開設  
から1年が経ち、

4月で2年目を迎えました。  
2025年問題や進行する  
少子高齢化などの社会的課題に  
対して地域医療の充実がより一  
層叫ばれる中、私たちの活動は  
これからはますます重要になると  
考えています。そこで、地域社  
会への情報提供とコミュニケー  
ションの強化を目指し「まほろ  
ば通信」を開始しました。  
3月4日、記念すべき第1号  
(4月号)を発行。今後3カ月  
ごとに発信する予定です。当施  
設の最新の活動や有益な情報を  
定期的にお届けすることで、地  
域での認知度向上を図るととも  
に、在宅医療が必要な患者さん  
とご家族の多様なニーズの把握  
につなげていきます。  
(理学療法士 三木征博)

〈鳥取〉境港総合病院  
短時間の研修で職員を啓発

無料低額診療事業の研修会を  
計6回、2月中旬にかけて当院  
会議室で行ない、328人が  
参加しました。  
より多くの職員への啓発につ  
なげるため、全職員対象の院内  
感染対策研修会の終了直後に  
短時間で実施。地域医療総合



支援センターの磯邊佳恵さん  
(MSW)が、経済的な不安に  
よる受診中断や受診控えを防ぐ  
ことに焦点を当てた事例紹介と  
ともに、どう対応するのか要点  
を絞って解説しました。  
研修後、早速職員から  
MSWへ事例の相談があり、  
患者さんへの早い対応につなが

りました。  
磯邊さんは「10分程度の説明  
でも職員への啓発になったと実  
感した。今後も職員への啓発を  
積極的に行ない、患者・家族へ  
の支援が迅速に行なえれば」と  
話しています。  
(済生記者 亀尾美子)



### 二十歳の皆さんおめでとう

「二十歳を祝う会」を1月22日に開催しました。「新社会人と



して働き、20歳を迎えた職員を  
当院で祝ってあげたい」という  
先輩職員の声かけで令和3年度  
から毎年行なわれています。  
今年も事務部2人、栄養部調  
理師1人の計3人が対象。笠原  
善郎院長から激励の言葉と記念  
品が贈られました。

3人は「まさか職場で20歳を  
祝ってもらえるとは思ってもし  
なかった。大人としての自覚を  
持つきっかけになった」と笑顔  
で語りました。

(済生記者 田中一弥)

### 〈長野〉佐久市特養 シルバーランドきしの 佐久市民の日に 懐メロと終活

3月9日の「佐久市民の日」  
にちなみ、当施設でも3月10日  
地域の皆さん32人を招いて催し  
を行いました。

当日は「出前ちくおんき屋」  
の蛙さんが昭和初期の流行歌を  
昔ながらの蓄音機で披露。懐メ  
ロに耳を傾けた後は、抹茶と桜  
餅で一息つき、終活に関する「こ  
ころづもりゲーム」を楽ししま  
した。

これは人生の最期をどう過ご



したいかを認識することを目的  
としたカードゲーム。自分の終  
活に対する思いや考えを他者と  
共有するだけでなく、言葉にす  
ることで自身の中でも再確認で  
きたようでした。

当日は、地元の小学1年生の  
紙版画や民生児童委員さん手作  
りのつるし雛が会場に花を添え、  
大勢の参加でとてもにぎやかな  
日となりました。

(済生記者 野沢景子)

### 初の支部長表彰に5人

2023年度新たに制定し  
た支部長表彰制度の表彰式を、  
3月6日、水戸済生会総合病院  
で執り行ないました。

支部内各病院の推薦を受け、  
受賞したのは井坂健一看護部主  
任(水戸済生会総合病院)、大



内保経営戦略監(茨城県立こども  
病院)、山口芳子看護部副師  
長(神栖済生会病院)、丸山健  
太リハビリテーション科科长補

佐(龍ヶ崎済生会病院)、岡山  
修二管理課長代理(常陸大宮済  
生会病院)の5人。村田実支部  
長から賞状と記念品がそれぞれ  
に贈呈されました。

より支部の発展に多大な貢献を  
されたことは素晴らしい。受賞  
を機に、さらに職務に精励して  
いただきたい」と祝辞を述べま  
した。

や加算要件・介護報酬改定に取  
り組んでいます。

### イギリスからの来訪者とISO認証を語る

#### 〈大阪〉中津病院

当院がISO9001(品質  
マネジメントシステム)の認  
証を受けているBSIグルー  
プ(英国規格協会)の担当者が、  
3月13日にイギリス本国から来  
院しました。

概念で策定されています。今  
回の意見交換で得た情報をもと  
に、ISO7101がISO  
9001に替わる第三者認証  
となり得るのかを検証します。

初の試みのため参加は自由と  
したのですが、清水雅施設長を  
はじめさまざまな職種15人が参  
加。請求の流れを伝えることで、  
ケアプランや介護記録などで職  
員一人ひとりのつながりを感じ  
ることができました。

(ISO事務局 上田健一)

(ユニットケア部 部長 市村恵子)



アンガス・メトカーフ(B  
SIグローバルのヘルスケア  
責任者)他5人は、昨年発行  
されたISOの新規格ISO  
7101(医療組織マネジメント  
システム)と日本の医療環境  
との親和性や、ISO認証が組  
織に与えるベネフィット(価値・  
恩恵)等について、志手淳也院  
長と意見交換を行いました。

### 職種の壁を越えた チームケア推進

#### 〈神奈川〉特養わかかさ

当施設では、  
令和4年12月か  
ら抜本的経営改  
善計画として五  
つのミッション  
を実施していま  
す。

そのうちの1  
つである「ミ  
ッション4」は、  
医療課・介護課・  
栄養課・生活支援課・事務の多  
職種でメンバーが構成され、主  
に厚労省が推進している科学的  
介護情報システム(LIFE)

### 「子どもの声を聴くために」 研修会に100人

#### 〈大分〉日田病院

2月25日、日田市複合文化施  
設AOSEで「子どもの声を聴  
けるおとなに!」と題した研修  
会を開催し、会場とWEB併  
せて100人が参加しました。

子どもの声を聴くための実践、  
子どもの声を聴く環境、話しや  
すい環境など、工夫された取り  
組みがありました。

その後のパネルディスカッシ  
ョンでは会場から多くの質問が  
あげられ、参加者の高い関心が  
うかがわれました。

終了後のアンケートでも「相  
談できる場所を知ることができ  
よかった」「子どもの意見を聴  
くことの大切さを改めて学ん  
だ」などの声があり、参加者の  
学びも大きかったようです。

(医療社会事業室長 桑野博文)



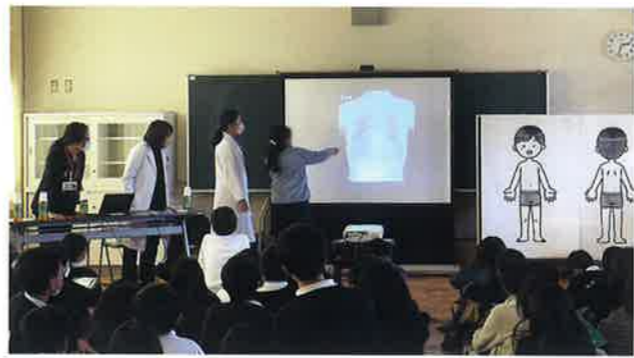
ISO7101はISO  
9001の内容をベースとし  
て医療組織向けに具体化したI  
SO初の医療の質に関する規  
格であり、PDSAサイクル  
(Plan-Do-Study-Action)の

介護情報システム(LIFE)

「子ども意見表明権」の制定を  
踏まえ、当院を含む市内6団体

6年生81人に「がん教育」

滋賀県病院



子どもたちに正しくがんについて理解をもらうことを目的としています。当院では5年前から外部講師として参画。この日は「今とこれから生きる君たちへ」と題し、がんの概要・がんの予防・がん検診・がん患者との共生・命の大切さ等について授業を行いました。ただ話を聞いてもらうだけでなく、クイズや画像問題等も授業内容に盛り込むことで、子どもたちが自発的に参加できる工夫をしました。

当院健診センターの河原絵里医師・小島真世医師・鰐部亜砂子診療放射線技師が、1月23日、葉山東小学校の6年生81人に「がん教育」を実施しました。新学習指導要領で導入された「がん教育」は、

待っています。

(健診センター 鰐部亜砂子)

〈茨城〉水戸済生会総合病院  
テクニカル賞と優秀賞をダブル受賞

キャノンメディカルシステムズ主催の「画論31st The Best Image」最終審査デイスカッションが12月17日、JPTタワーホール&カンファレンスで開催され、放射線技術科の佐々木允係長がCT部門でテクニカル賞と優秀賞を受賞しました。本コンテストは、診断・治療に有用な画像のクオリティ、被



佐々木係長(右)と上司の黒羽科長補佐

検者へのメリット、テクニクの創意工夫などを総合的に評価し、「画像診断技術と医療の発展に貢献する画像」として多くの施設で共有することを目的としています。

普段の学会や研究会と異なる雰囲気と緊張感、他施設の有益な画像を提供しようという熱意や取り組みに刺激を受けたという佐々木係長。「今回の受賞を臨床に生かし、次回は最優秀賞を目指して精進していく」と決意を述べました。

(済生記者 今野正俊)

〈大阪〉吹田病院

「継続は力なり」  
在宅を「ともに」考えよう

「第4回在宅をともに考える会」を2月8日に開催しました。テーマは「当院の訪問リハの魅力と在宅でのリハビリについて考えよう」。院内から43人、院外から32人の参加がありました。前半はリハビリテーション科の山田忠明理学療法士が、当院の訪問リハのサービス内容や活動について講演。後半のグループワークでは多職種40人近くが7グループに分かれ、リハビリ

について意見を交わしました。この1年間、ホームケア支援課では試行錯誤しながらも地域の方々さまざまな場面を「ともに」考える活動を行ってきました。2年目も見える関係性づくりを目指し「ともに」考える活動に全力で取り組んでいきます。

(ホームケア支援課主任 加藤尚子)

〈山口〉豊浦病院  
看護補助者が成果発表

3月13日、看護補助者が中心となって介護成果発表会を開催し、発表者含め約20人が参加し



ドラマ「となりのナースエイド」のように当院の看護補助者も頑張っています！

ました。

各部署はスライドを駆使し、取り組みの成果を発表。発表者の真剣さと緊張が入り混じった声からは、どうすればより転倒リスクを減らせるか、患者に寄り添うことができるか、安心安楽な環境を提供できるか、自立支援に貢献することができるか等、思いが伝わってきました。

近年はコロナの影響で紙面での発表などが続いていましたが、今回は久しぶりの対面形式での開催。常日頃からの職員のさまざまな思いが実際に形になっていく力強さを直に感じることができ、素晴らしい発表会となりました。

(5階西病棟 看護補助者主任 新井 智)

ACPの重要性を  
地域で共有

〈北海道〉小樽病院

3月12日、当院で「小樽病院 診連携カンファレンス」を開き、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の重要性について市内の在宅医療関係者らと認識を共有しました。同カンファレンスは、当院な

どの市内急性期病院と、在宅医療に取り組み開業医らのグループが、病診連携・多職種情報共有の場として定期的に開催しています。

今回はハイブリッド方式で約50人が参加。当院が紹介した在宅療養患者さんに関する報告や、札幌市の在宅緩和ケア専門診療所の医師による講演が行なわれました。

質疑応答では、当院リハビリテーション室のスタッフが、患者さんと一緒に歩きながら話を聞き、ACPを進めている取り組みを紹介。常に「ほかに何か話し忘れていないことはありませんか」と患者さんに聞く姿勢が大事だと参加者の意見が一致しました。

(地域医療連携室 定 淳志)

京都済生会病院

ふるさと祭で健康啓発

2月18日、長岡第九小学校で開催された「第41回長九小学校区ふるさと祭」に、長岡京市役所健康づくり推進課と当院の健診センターが共同で出展しました。イベント全体で約500人、当ブースには約40人が訪れ



測定を体験してもらいました。

本イベントへの出展は、長岡京市に「子育て世代に各種健康診断の啓発活動ができるようなイベントがあれば参加したい」と相談していたことから実現。地域のイベントに積極的に参加することで、世代に応じた各種検診の啓発活動ができ、健康意識向上につながるのではと期待しています。

(健診センター係長 瀬元健太郎)

特養までして香川  
保育園児とうどん作り

デイサービス利用者さん5人が2月2日、普段から当施設とつながりのある「にじいろうさぎ保育園」に招かれ、世代間交流として「うどん作り」や「ふれあい遊び」などを園児16人と一緒に行ないました。



園児の皆さんのかわいらしい笑顔に癒やされ、デイサービス利用者さんたちも自然と笑顔に。うどん作りでは、「昔はよくうどんを作ってたわあ〜」との言葉通り、小麦粉に水を加えてこねる作業になると利用者さんたちが大活躍。みるみるうちに



生地が完成しました。うどん作りの醍醐味、生地を足で踏む作業も、園児の皆さんと一緒にしっかり踏み込みました。その後、綿棒を巧みに扱いつつながらコシのある生地を薄く延ばしていく様子は、さすがだと感じました。最後に皆で記念撮影。園児の皆さんとの交流は、とても穏やかです。きな時間でした。

(施設長 浄土明大)

〈東京〉向島病院  
患者に喜ばれる  
病院食とは？

当院栄養管理科が1月29日、食品産業新聞社が発行する「月刊メニューアイデア」の取材を受けました。

当日は同誌編集部員の山田翔大さんが来院し、「患者満足度向上への取り組みと食材費の高騰対策」をテーマにインタビュー。当院からは平賀浩士栄養管理科長、五十嵐加奈子管理栄養士、進藤厚子調理師が対応し、終始和やかな雰囲気で行いました。当院では給食に関する患者さ



アンケートを毎年実施しており、直近3年間の満足度は92%、94%、95%と向上。また、近年の食材高騰に対しても精力的に取り組んでいます。この取り組みの具体的なポイントについては……ぜひ「月刊メニューアイデア3月号」の記事をご覧ください！

(済生記者 加藤建志)

〈神奈川〉若草病院  
ボランティアからつるし雛

2月26日、六浦地域ケアプラザのボランティア部から手作りのつるし雛の寄贈がありました。届けてくれたのは、ボランティア部の部長で同ケアプラザの地域活動・交流コーディネーターの山田和恵さんです。

椿や菊、桜といった花や鳥など、一つひとつが細かな細工で丁寧に作られたボランティア部のつるし雛。その精巧さに感嘆の声が上がりました。せっかくなので、ひな祭りにこだわらず3月いっぱい飾ることになりました。

飾る場所は当院外来ホールで、院内デイケアで患者さんが作成している壁飾りの前。六浦地域

ケアプラザのボランティア部と院内デイケアの患者さんとのコラボとなりました。

(済生記者 高木裕子)

ACPが実践できる  
地域を目指して

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

令和5年度2回目の「5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会」を2月22日に開催し、54人が参加しました。

今回のテーマは「ACP人生会議を出来る地域になる！〜最期まで、その人らしく〜を支えよう」。はじめに「ACPが実践できる地域になる」を目標に、当院緩和ケア認定看護師



〈東京〉向島病院

の尾崎晶子看護課長がACPに関する講義を実施。その後、看護部による「私の心づもり」というチェックシートを使い、実際にACPを参加者全員で実践しました。

見が飛び交い、会の満足度は100%と非常に好評。特に民生委員(12人参加)からは「とても勉強になった。もっとこのような場をつくってほしい」など前向きな意見がたくさんありました。

(地域医療連携室 濱崎妃沙子)

レッツ！  
コグニサイズ！

2月16日、当院のそばにある横曽根公民館で「暮らしの保健室出張健康講座」を開催し、地域住民15人に認知症予防体操

うれし驚きでした」と講座を振り返りました。終了後は希望者に対してMSWが治療や生活に関する相談会を行いました。

(医療福祉事業課 柳光李恵)

コグニサイズを体験していただきました。和気あいあいとした雰囲気の中、やさしい課題から難しい課題までまんべんなくチャレンジし、会場は大盛り上がり！講師を務めた作業療法士の西川悠子さんは「皆さん、身体も頭の回転も速く、予定していた課題を楽々とこなしていて、



〔どこでも連絡帳〕使い方を  
実践形式で学ぶ



2月29日、宇都宮市医療・介護連携支援ステーション運営業

〔栃木〕宇都宮病院

務委託事業として、2023年度2回目のネットワーク研修を当院みやのわホールで開催しました。

当日は、地域で活躍する医療・介護関係者のほか、行政職員など37人が参加。宇都宮市医師会の松澤英克事務局長を講師に迎え、栃木県医師会が運営する「どこでも連絡帳」の普及促進のため、使い方講座を行いました。

参加者からは「今後、業務で活用していきたい」と前向きな意見があり、盛況のうちに研修会を終えることができました

（地域連携課 秋山綾香）

滋賀県病院

がんの予防と早期発見を

第20回済生会がんセンター市民公開講座を栗東芸術文化会館さきらで2月17日に開催し、130人が参加しました。

当日は、保田宏明副院長兼がんセンター長をはじめ、6人の医師が消化器がん・肺がん・子宮頸がん・前立腺がん・乳がんなど、専門のがん予防と早期発見・検診について講演しました。

会場前には、乳がんの触診モデルや経口・経鼻内視鏡を實際にすることが出来る「検診体験ブース」も設置することで、より多くの人に興味を持って



いただきました。  
（済生記者 西澤真由美）

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介し

医療機関以外でも感染症の罹患者を減らすために

〔神奈川〕若草病院  
感染防止対策室・高橋師長  
1月25日に日本環境感染学会ホームページで公開された「日本環境感染学会誌」第39巻第1号（年6回オンライン更新）に、当院感染防止対策室・高橋幸子師長の論文（英文）

が掲載された。

老健の職員に対するWHO手指衛生多角的戦略実施の効果を検証し、所見から手指衛生の遵守が改善し感染症罹患者を低下させることが示唆された」と論じられている。

当論文は、原著として掲載。感染症予防はとかく医療機関内での研究が多い。しかし、感染管理認定看



護師に加え感染症看護専門看護師を取得している高橋師長は、自身の専門性を医療機関はもとより医療機関以外の底上げに生かしてこそ、その見識から、WHO手指衛生多

角的戦略を老健で自ら指導実践。今回の研究発表に至った。当論文では、高橋師長の介入が、介護老人保健施設入所者の安心安全につながったと考えられた。  
（済生記者 高木裕子）

看護部が執筆協力  
Z世代ナース指導の実践本

大嶋由紀看護部長／白木教育専従課長  
大嶋由紀看護部長と白木摩耶教育専従課長が執筆協力した「令和版教



る」「伝える」に焦点を当てた本書には、会話例やケーススタディも紹介され、その理論は他職種にも応用できると思われる。よりよい新人・後輩指導とは何か——悩める指導者必見の実践本となっている。  
（経営企画課 木下昌子）

えて！ホメシカ先生！Z世代ナースのほめ方・しかり方・伝え方」が2月、メディア出版から刊行された。その人に気づきを与え、自ら行動したくなるようサポートする「コーチング」の国際資格を持ち、日頃の看護師教育に努めている二人。特に教育・育成が難しいといわれるZ

世代への接し方について、コーチング理論を生かし、若手との間に「安心と信頼」を築ける関係づくりを実践している。その実績は著者の野津浩嗣氏も知るところであり、今回の執筆協力につながった。  
Z世代ナースを対象に、数あるコーチング技法から「ほめる」「しか

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください。

今年の雪像は……

1月31日、〔北海道〕小樽病院の院内保育所などでこキッズクラブ前に「ちいかわ」の雪像が登場しました。作成したのは施設係の神山拓也主任。1月には日降雪量観測史上3位を記録した小樽の積もりに積もった大雪を使い、2日間かけて仕上げました。1日目はスコップとコテで全



体の形を整え、2日目に廃品となった材料（類はカラーコーン、目はパイプキャップ）で顔をデザインし完成！  
子どもたちは突然現れた「ちいかわ」に大はしゃぎ。ベタベタと触りながら「かわいい、かわいい」と大喜びでした。  
アンパンマンから始まった神山主任の雪像づくりも今年で5基目。毎年、保育所前に出現する雪像を、子どもも大人も心待ちにしています。来年はどんなキャラクターの雪像が登場するのか、今から楽しみです。  
（北海道・小樽病院

済生記者 松尾寛志）  
★3月はじめに小樽を訪れました。慣れない雪の上、豪快に転んで体の半分が真っ白になったことは内緒。  
（メディアカル・リーフ 坂本陽子）

肝臓共同研究グループ異聞!?

2月25日朝9時半ごろ、ある研究会に臨んでいた私のスマホが鳴りました。画面には〔島根〕江津総合病院の堀江裕名誉院長のお名前。先生は済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）のメンバーで、私の医局の先輩です。「日曜日に研究の話？」と電話に出ると、思いがけないお言



NHKテレビから

葉。

「今日、お昼、NHKの『どご自慢』に出るから見て！」  
私は研究会がありオンエアでは拝見できませんでしたが、先生は黒帯の道着で「柔道一代」を歌われました。このニュースを知らせた方々は「とても上手だった」「姿勢が良く、実年齢とのギャップを感じた」と大好評でした。

実は本番は2月11日でした。生放送中に能登で強い地震があり、緊急ニュースに切り替わったため日程を改めての録画放送となったそうです。

堀江先生は2012年から応募し続けましたが、予選止まり。7回目の今回、応募総数は800組以上で200組が予選に。そこから20組が本選出場で、実に倍率は40倍！12年かけて夢を叶えられた先生に惜しみなく拍手を送りますが、先生は「今回は鐘二つだったから、次回こそ

は……」

〔全国済生会肝臓共同研究グループ 川上万里〕

★2月11日の中断前の放送を偶然見ました。腰痛対策で柔道を始め、今も中学生相手に練習している、と意気軒高でした。

(旧本報 山内 敦)

「何が出るかな〜」

皆で話そう！研修

虐待予防や接遇の研修は、どうしても「〜してはいけない」「〜してはならない」という内容になりがち。「山形」特養やまのべ荘の虐待予防委員会と接遇委員会がコラボ企画した「皆で話そう！研修」は一味違います。この研修では参加者はレク感覚で



サイコロを振り、出たマス目のテーマで話をしてもらいます(昔懐かし、ライオンマークでお馴染みの某テレビ番組風)。サイコロは委員の手作り(力作!)。1が出たら「どきっとした瞬間」、2は「私が目にした素敵な対応、場面」、3は「日頃感じるグレイゾーン」、4は「私が真似したいロールモデル」、5は「気になるモヤモヤした対応、場面」、最後の6は「何でもOK!」

昨年11・12月、各部署会議内の時間を活用し10〜15人を1グループとして研修を実施。できるだけ参加者全員に話してもらい、はっとしたり、なるほどな……と思ったり。ときには笑い声も上がる楽しい雰囲気の中、さまざまな意見を聞くことができました。

(山形・特養やまのべ荘 副主任生活相談員 高橋有美)

★参加者に楽しく学んでもらえて、すてきな工夫ですね。レク感覚だからこそ悩みや迷いを言いやすそう！

(本報 杉山菜央)

大興奮！ふれあい餅つき

2月24日、上長崎地区ふれあいセンターで開催された「ふれあい餅つき」に参加しました。上長崎地区自治会連合会の声かけ



で、当日は地域の皆さんや近隣中学校の生徒さん約150人が集合。餅つき経験のない人が多く、杵の重さでヨロヨロとなるほどのかわいいつき手さんも。ベテランさんのアドバイスを受けながら「よいしょ!」のかけ声で奮闘しました。私も久しぶりの餅つきに大興奮!! 皆で協力し、もち米60キロ・餡子25

キロ分を無事丸餅に作り上げることができました。つきたてのお餅をその場で食べることの幸せといたらありません。大根おろし醤油、きな粉など、いろいろな味が楽しめて、つい食べ過ぎてしまいました。そして、次の日には恐ろしいほどの筋肉痛となりました……。

(長崎病院 済生記者 平川幸子)

★もち米60キロ! いい運動になったことでしょう。つきたてのお餅、美味しそうですね。お疲れ様でした!

(大空出版 兼本美祈)

ダブル「智也」で救った命 昨年12月23日、都営浅草線泉岳寺駅のホームに横たわる男性を発見した今井智也さん(東京) 向島病院・理学療法士)。声をかけたところ反応がなく、脈も呼吸もありません。「これはまずい!」、

今井さんは周囲の人にAEDを持ってきてもらうよう依頼し、胸部圧迫を開始。このとき、近くにいた学生さんがすでに救急隊に通報してくれていて、今井さんは救命行為に集中できたそうです。

その甲斐あってか、届いたAEDの解析では「ショックは不要です」の判定。じきに男性が「う〜ん……」と発声し、その後は到着した救急隊に引き継ぎました。

迅速に救急通報をした学生さんの名前は、なんと吉川「智也」さん! 2月22日、男性の命を救ったダブル「智也」さんには、消防総監からの感謝状が授与されました。

なお、男性は順調に回復し、社会復帰を果たしたそうです。(東京・向島病院)

済生記者 加藤建志

★ダブル「智也」さん、ナイス連携です! とっさの出来事でも対応できるのが素晴らしいです。(本報 杉山菜央)



ありがとう! 齋藤店長さん

長崎病院の職員食堂は、医学生や委託業者の間でもおもしろいと評判で、研修医から「食堂のご飯がおいしいからここを選びました!」と言



われるくらいです。これって2人前?と目を疑うボリュームの長崎名物トルコライスや、毎月29日の「肉の日」に提供されるステーキなど、予約で完売してしまう日替りメニューがたくさん!

そんな大人気の食堂で店長として5年間勤めた齋藤浩二さんが3月1

次号予告

済生 No.1139 [令和6年5月号]

済生会の不易流行論 (188) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 蝶花楼桃花  
てづくりおもちゃ いまいみさ

日、定年退職を迎えました。

私も毎日のように食堂を利用し、遅くなる日はお弁当までお願いしたこと……。毎日朝早くに出勤し、台風の日も大雪の日も、職員に食事と笑顔を提供してくれた齋藤店長さん。本当にありがとうございました。

(長崎病院 済生記者 平川幸子)

★齋藤シェフが愛のこもったご飯をつくる風景が、容易に目に浮かびました。ご自身で食堂を開いてみては……!?

(メディカル・リーフ 富谷咲希)

毎週火曜は朗読の時間

〈山形〉養護(盲)老人ホーム山静寿にはさまざまなクラブ活動があり、入所者さんはそれぞれ希望するクラブに所属して活動しています。3月5日は「朗読クラブ」の活動日。毎週火曜の午前中、入所者2人と職



員1人で活動する同クラブでは、入所者さんのリクエストを踏まえて本を選び、読み進めていきます。本のほか、新聞の時事コラムからの句の話題などを取り上げることも。参加者の皆さんは全盲のため、朗読は職員が行ないます。朗読後はそれぞれの感想や意見を交わし合う語らいの場にもなっています。

えっ……?  
 面白い物好きの  
 あの子まで……



最近、  
 将来に備えて  
 貯金し始めたの



人生に必要な「お金」を  
 FPが教えます!

もしかして……  
 ノープランなの、  
 あたしだけ!?

済生会の職員なら  
**誰でも  
 申込OK!**

# ライフプランニング 体験会

**WHAT'S LIFE PLANNING?**  
 あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家(FP)のアドバイスをもとにまとめて上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランを一緒に作りましょう!

お申込みは  
 こちらから

現在読み進めている本は「面白くて眠れなくなる人体」。自身の体に関連する内容が豊富に書かれているため、皆さんは興味津々。何度もうなずきながら聞き入り、朗読を通して健康への意識を高めているようでした。

(山形・養護(盲)老人ホーム山静寿 済生記者 丹 秀樹)

★声で物語を楽しむ時間、贅沢ですね。「面白くて眠れなくなる人体」も気になります。

(大空出版 後藤藍子)

はまな荘でも人気のカレンダー  
 本誌3月号・大雑報に掲載の「笑顔がすてきなカレンダー」。(広島)老健はまな荘でも大人気です。

「カレンダーが欲しいので売ってもらえませんか?」「わしが出るとるんじゃが、貰えんかのう」と話す利用者さん。「記念になるので家に飾りたい」「ベトナムの家族に送りたい」とリクエストする職員もいました。

カレンダーは上期(1~6月)と下半(7~12月)の2セットで各5枚。本部広報課に追加を要望するも在庫はないとのこと。やむを得ず掲示期間が過ぎたら利用者さんにお譲りして、余ってれば職員で抽選することにしました。

皆に喜んでもらえるのであれば、



今年もたくさん記事を投稿し、来年も選んでいただけるよう頑張ります。

(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)

★ご好評いただきありがとうございます。オンデマンド印刷のため大量生産できないのですが、皆さんに喜んでもらえるよう考えます。

(本部広報課 河内淳史)

**済 生** [令和6年4月号]  
 THE NEWSLETTER of  
 Social Welfare Organization  
 Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.  
 令和6年4月10日発行  
 通巻第1138号(第100巻第4号)  
 編集兼 炭谷 茂  
 発行人  
 発行所 社会福祉法人 済生会  
 〒108-0073  
 東京都港区三田1-4-28  
 三田国際ビルディング21階  
 TEL: 03-3454-3311(代)  
 FAX: 03-3454-5576  
 印刷所 株式会社白橋  
 東京都中央区八丁堀4-4-1  
 ©社会福祉法人 済生会

**済生会**  
 明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために治療に よる 済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施業救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
 会長 潮谷義子  
 理事長 炭谷 茂  
 本部 東京 支部 40都道府県  
 診療所 20  
 介護医療院 2  
 介護老人保健施設 28  
 救護施設 1  
 児童福祉施設 25  
 老人福祉施設 120  
 障害者福祉施設 9  
 看護師養成施設 7  
 訪問看護ステーション 64  
 地域包括支援センター 31  
 地域生活定着支援センター 5  
 その他 10  
 合計 403 (数字は令和4年度)  
 さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。  
 職員数は全国で約6万4000人。



# これまでの感謝と共に。 手動ベッドを電動ベッドへ！

目標金額 700万円 2024年 3月 12日 (火)10時から 4月 30日 (火) 23時まで

済生会呉病院がクラウドファンディングに挑戦中！

## ご高齢の方が多い呉地域だからこそ 電動ベッド全床導入を目指して！

※本プロジェクトはAll in 方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

近年高齢化は日本全体で進んでおりますが、呉病院のある地域は特に高齢化が進んでおり、患者様の平均年齢は81歳です。当院は地域の特性を理解しながら、寄り添い、ご高齢の患者様でも過ごしやすい病院を目指して医療の提供を続けております。

そして、現在病院として取り組みたいことは、手動ベッドから電動ベッドへの完全移行です。ご高齢の方にとって、誤嚥性肺炎や廃用症候群の予防のために、気軽にベッドで上体を起こすことができることは極めて重要です。

現在、院内の病床数は150床で、そのうち89床が電動ベッドで残り61床が手動式ベッドになっております。

電動ベッドへの完全移行には病院だけの力ではどうしても資金面での限界があり、クラウドファンディングで資金を募ることを決断しました。

地域をつなぐ地域密着型病院として、患者様も、スタッフにとっても、快適な療養環境をつくるために、今回の挑戦に踏み出します。皆様からのあたたかいご寄付をいただきますよう、どうぞよろしくお祈りいたします。

### 1. WEBサイトからのご寄付の方

WEBサイトからご寄付いただける方は、下のQRコード、もしくは検索から、クレジットカード、コンビニ支払い\*または銀行振込でご寄付ください。

済生会呉病院 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/kure-2024>



### 2. 申込書を利用したご寄付の方

ウラ面の申込書にご記入の上、メールまたは郵送にてご提出ください。その上で、銀行口座にご寄付金をお振込ください。(お振込だけではご寄付を正常に受理できません。必ず申込書もご提出ください)

#### 【お申し込み先】

済生会呉病院 総務課  
〒737-0821  
広島県呉市三条2丁目1番13号  
電話：0823-21-1601 (代表)  
メール：jimu@saiseikai-kure.jp

#### 【振込先】

金融機関：広島銀行 (0169)  
支店名：呉支店 (064)  
口座番号：普通 3168131  
口座名義：社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部  
カナ：フク オンシザイダン サイセイカイシブ

\*コンビニ支払いは、ファミリーマート、ローソン、ミニストップのみ利用可能です。寄付金額+システム利用料の合計金額が30万円未満のご寄付でご利用いただけます。



お問い合わせは済生会呉病院へお願いいたします。

EMAIL : [jimu@saiseikai-kure.jp](mailto:jimu@saiseikai-kure.jp) TEL : 0823-21-1601 (代表)





# これまでの感謝と共に。 手動ベッドを電動ベッドへ！

目標金額 700万円 2024年 3月 12日(火)10時から 4月 30日(火) 23時まで

済生会呉病院がクラウドファンディングに挑戦中！

## ご高齢の方が多い呉地域だからこそ 電動ベッド全床導入を目指して！

※本プロジェクトはAll in 方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

近年高齢化は日本全体で進んでおりますが、呉病院のある地域は特に高齢化が進んでおり、患者様の平均年齢は81歳です。当院は地域の特性を理解しながら、寄り添い、ご高齢の患者様でも過ごしやすい病院を目指して医療の提供を続けております。

そして、現在病院として取り組みたいことは、手動ベッドから電動ベッドへの完全移行です。ご高齢の方にとって、誤嚥性肺炎や廃用症候群の予防のために、気軽にベッドで上体を起こすことができることは極めて重要です。

現在、院内の病床数は150床で、そのうち89床が電動ベッドで残り61床が手動式ベッドとなっております。

電動ベッドへの完全移行には病院だけの力ではどうしても資金面での限界があり、クラウドファンディングで資金を募ることを決断しました。

地域をつなぐ地域密着型病院として、患者様も、スタッフにとっても、快適な療養環境をつくるために、今回の挑戦に踏み出します。皆様からのあたたかいご寄付をいただきますよう、どうぞよろしく申し上げます。

### 1. WEBサイトからのご寄付の方

WEBサイトからご寄付いただける方は、下のQRコード、もしくは検索から、クレジットカード、コンビニ支払い\*または銀行振込でご寄付ください。

済生会呉病院 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/kure-2024>



### 2. 申込書を利用したご寄付の方

ウラ面の申込書にご記入の上、メールまたは郵送にてご提出ください。その上で、銀行口座にご寄付金をお振込ください。(お振込だけではご寄付を正常に受理できません。必ず申込書もご提出ください)

#### 【お申し込み先】

済生会呉病院 総務課  
〒737-0821  
広島県呉市三条2丁目1番13号  
電話：0823-21-1601(代表)  
メール：jimu@saiseikai-kure.jp

#### 【振込先】

金融機関：広島銀行(0169)  
支店名：呉支店(064)  
口座番号：普通 3168131  
口座名義：社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 カナ  
フク) オンシザイダン サイセイカイシブ

\*コンビニ支払いは、ファミリーマート、ローソン、ミニストップのみ利用可能です。寄付金額+システム利用料の合計金額が30万円未満のご寄付でご利用いただけます。



お問い合わせは済生会呉病院へお願いいたします。

EMAIL : [jimu@saiseikai-kure.jp](mailto:jimu@saiseikai-kure.jp) TEL : 0823-21-1601(代表)



グリーン・プリンティング  
この印刷製品は、環境に配慮した  
資材と工場で製造されています。